

就キ受クベカリシ助産ノ手當ノ一部ヲ受ケザリシトキハ知事ニ於テ又ハ保險醫ノ爲シタル助産ノ手當ヲ健康保險ノ助産ノ手當ニ非ザルモノト認定スルコトアルベシ

前項ノ認定ヲ爲シタルトキハ知事ニ於テ被保險者及保險產婆又ハ保險醫ニ其ノ旨ヲ通知ス

第二十八條 第十八條第二項、第二十四條第二項及第二十五條第二項ノ規定ニ依リ保險產婆若ハ保險醫ノ證明書又ハ產婆若ハ醫師ノ意見書ヲ添附スベキ場合ニ於テ届書又ハ申請書ニ相當ノ記載ヲ受ケタルトキハ證明書又ハ意見書ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第二十九條 保險產婆又ハ保險醫第十八條第二項若ハ第二十五條第二項ノ規定ニ依ル證明書又ハ第二十四條第二項ノ規定ニ依ル意見書ヲ求メラレタルトキハ正當ノ事由アルニ非ザレバ之ヲ拒ムコトヲ得ズ前條ノ規定ニ依リ證明又ハ意見ノ記載ヲ求メラレタルトキ亦同ジ

第二十九條ノ二 本令ノ規定ニ依ル届出又ハ申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ届書又ハ申請書ニ添附スベキ書類ハ届出又ハ申請ノ際之ヲ提出スベシ但シ知事ニ於テ其ノ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條 第十八條第一項、第二十條及第二十五條第一項ノ規

定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス第二十六條ノ場合ニ於テ第二十條ニ相當スル規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第三十一條 本令中被保險者トアルハ被保險者ノ資格喪失後保險給付ヲ受クル者ヲ含ムルモノトス

附 則

本令ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年福岡縣令第五十八號健康保險法ニ依ル助産手當給付規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附 則

(昭和十年三月三十日福岡縣令第十五號)

本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五類 調停之部

第五類 調停之部

目次

- 労働争議調停法…………… 大 一 五 年 法 律 五 七 號…………… 一
- 労働争議調停法施行令…………… 大 一 五 年 勅 令 一 九 六 號…………… 五
- 労働争議調停法第一條第一項第六號ノ事業ヲ定ムル件…………… 大 一 五 年 勅 令 二 五 三 號…………… 六
- 労働争議調停法ニ依ル費用辨償ニ關スル件…………… 大 一 五 年 縣 令 一 三 八 號…………… 七

労働争議調停法

大正十五年四月九日
法律第五十七號

第一條 左ニ掲グル事業ニ於テ労働争議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得當事者ノ請求ナキ場合ト雖行政官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキ亦同ジ

- 一 蒸氣、電氣其ノ他ノ動力ヲ使用スル鐵道、軌道又ハ船舶ニ依リ公衆ノ需要ニ應ズル運輸事業
- 二 公衆ノ用ニ供スル郵便電信又ハ電話ノ事業
- 三 公衆ノ需要ニ應ズル水道電氣又ハ瓦斯供給ノ事業
- 四 第一號乃至第三號ノ事業ニ電氣ヲ供給スル事業ニシテ其ノ休止ガ第一號乃至第三號ノ事業ノ進行ヲ著シク阻害スルモノ
- 五 其ノ他公衆ノ日常生活ニ直接關係アル事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ
- 六 陸軍又ハ海軍ノ直營ニ係ル兵器艦船ノ製造修理ノ事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ

前項ニ掲グル以外ノ事業ニ於テ労働争議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者雙方ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得

労働争議調停法

第二條 調停委員會ヲ開設セムトスルトキハ行政官廳ハ當事者雙方ニ之ヲ通知スベシ

第三條 調停委員會ハ九人ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス委員ノ中六人ハ労働争議ノ當事者ヲシテ各同數ヲ選定セシメ他ノ三人ハ當事者ノ選定シタル委員ヲシテ争議ニ直接利害關係ヲ有セザル者ニ就キ選定セシメ行政官廳之ヲ囑託ス

前項ノ規定ニ依リ囑託セラレタル委員ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ズ

第四條 労働争議ノ當事者第二條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ三日内ニ前條第一項ノ規定ニ依リ其ノ選定シタル委員ヲ行政官廳ニ届出ブルコトヲ要ス

當事者前項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲サザルトキハ行政官廳ハ當事者ニ代リ委員ヲ選定ス此ノ委員ハ當事者ノ選定シタルモノト看做ス

前二項ノ規定ニ依ル手續終リタルトキハ行政官廳ハ直ニ前條第一項ノ規定ニ依リ當事者ノ選定シタル委員ニ於テ選定スベキ委員ノ選定ヲ要求スベシ此ノ場合ニ於テハ當事者ノ選定シタル委員ハ四日内ニ之ヲ選定シ行政官廳ニ届出ブルコトヲ要ス

ス

前項ノ規定ニ依ル届出ナキトキハ行政官廳ハ當事者ノ選定シタル委員ニ代リ前項ノ規定ニ依リ選定スベキ委員ヲ選定ス此ノ委員ハ當事者ノ選定シタル委員ニ於テ選定シタルモノト看做ス

第五條 委員中缺員ヲ生ジタルトキハ前二條ノ手續ニ準ジ之ヲ補充ス

第六條 委員定リタルトキハ行政官廳ハ直ニ調停委員會ヲ招集シ之ヲ開會スベシ

第七條 調停委員會ニ議長及其ノ代理者ヲ置ク

議長及其ノ代理者ハ當事者ノ選定ニ係ル委員ニ於テ選定シタル委員ノ互選ニ依リ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ之ニ充ツ多數ヲ得タル者ナキトキハ抽籤ニ依ル

第八條 調停委員會ハ労働争議ノ解決ニ必要ナル調査審理ヲ爲シ其ノ調停ヲ爲スモノトス

第九條 調停委員會ハ開會ノ日ヨリ十五日内ニ調停手續ヲ結了スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ當事者ノ選定シタル委員全員ノ同意アリタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得

第十條 調停委員會ハ議長又ハ其ノ代理者及各當事者ノ選定シタル委員各二名以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得

ズ

第十一條 調停委員會ノ議事ハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外過半数ヲ以テ決ス可否同数ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十二條 調停委員會ノ議事ハ之ヲ公開セズ行政官廳ハ調停委員會ノ承認ヲ得テ當該官吏ヲシテ會議ニ臨席セシムルコトヲ得

第十三條 調停委員會ハ調停ニ必要ナル範圍ニ於テ當事者又ハ其ノ代表者其ノ他利害關係人又ハ參考人ニ對シ出席説明ヲ求め又ハ説明書類ノ提示ヲ求ムルコトヲ得

第十四條 調停委員會ハ調停ニ必要ナル範圍ニ於テ委員ヲシテ作業所其ノ他争議ノ關係場所ニ立入り、作業若ハ設備ヲ視察シ又ハ關係者ニ質問セシムルコトヲ得但シ軍事上秘密ヲ要スル場所ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 委員又ハ委員タリシ者ハ故ナク前二條ノ場合ニ知得タル秘密ヲ漏洩スルコトヲ得ズ

第十六條 第九條ニ規定スル調停手續ノ結了ノ場合ニ於テハ調停委員會ハ其ノ願末ヲ行政官廳ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ労働争議解決スルニ至ラザリシトキハ調停委員會ハ其ノ報告ニ委員會ノ決議セル争議調停案及之ニ關スル少数意見ヲ表示スルコトヲ要ス

二

第十七條 行政官廳ハ前條ノ規定ニ依ル報告ノ要旨ヲ公表スベシ但シ労働争議解決シタル場合ニ於テ當事者一方ノ選定シタル委員全員ガ豫メ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條 委員及第十三條ニ規定スル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

第十九條 第一條第一項ニ掲グル事業ニ於ケル労働争議ニ關シ第二條ノ規定ニ依ル通知アリタルトキハ現ニ其ノ争議ニ關係アル使用者及労働者並其ノ屬スル使用者團體及労働者團體ノ役員及事務員以外ノ者ハ第九條ニ規定スル調停手續ノ結了ニ至ル迄左ニ掲グル目的ヲ以テ其ノ争議ニ關係アル使用者又ハ労働者ヲ誘惑若ハ煽動スルコトヲ得ズ

一 使用者ヲシテ労働争議ニ關シ作業所ヲ閉鎖シ、作業ヲ中止シ、雇傭關係ヲ破毀シ又ハ勞務繼續ノ申込ヲ拒絶セシムルコト

二 労働者ノ集團ヲシテ労働争議ニ關シ勞務ヲ中止シ、作業ノ進行ヲ阻害シ、雇傭關係ヲ破毀シ又ハ雇傭繼續ノ申込ヲ拒絶セシムルコト

第二十條 故ナク第十三條ニ規定スル出席説明又ハ説明書類ノ提示ヲ爲サザル者ハ五十圓以下ノ過料ニ處ス
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過

料ニ之ヲ準用ス

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十三條ノ場合ニ於テ虚偽ノ説明ヲ爲シタル者
二 故ナク第十四條ノ規定ニ依ル立入、視察ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨グ又ハ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

三 第十五條ノ規定ニ違反シタル者

第二十二條 第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(大正十五年六月勅令第九十七號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行)

【參照】 明治卅一年六月法律第十四號非訟事件手續法抄録

第二百六條 民法第八十四條、第一千七百七號及ビ民法施行法第二十二條及ビ商法第十八條第二項、第二百六十二條、第二百六十二條ノ二、第五百三十六條及ビ商法施行法第十一條第二項、第二十七條、第三十九條第二項、第五十四條、第六十條第二項、第六十九條、第七十五條第三項、第八十七條ニ定メタル事件ハ過料ニ處セラルベキ者ノ住所地ノ地方裁判所ノ管轄トス

三

勞働爭議調停法

第二百七條 過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スベシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムベシ

當事者及ビ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ効力ヲ有ス

手續ノ費用ハ過料ニ處スル言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡ヲ受ケタル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫負擔トス

抗告裁判所ガ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ビ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔トス

第二百八條 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ効力ヲ有ス
過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セズ

勞働爭議調停法施行令

大正十五年六月廿四日
勅令第百九十六號

第一條 勞働爭議調停法及本令ニ依ル行政官廳ノ職務ハ爭議ノ發生シタル作業所所在地ノ地方長官(東京府ニアリテハ警視總監以下之ニ同ジ)之ヲ行フ

同一ノ爭議ガ前項ノ規定ニ依リ二以上ノ地方長官ノ管轄ニ涉ルトキハ内務大臣ハ其ノ一ヲ指定シテ前項ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第二條 内務大臣必要アリト認ムルトキハ前條ニ規定スル行政官廳以外ノ行政官廳ヲ指定シテ前條第一項ノ職務ヲ行ハシメ又ハ自ら之ヲ行フコトヲ得但シ内務大臣其ノ指揮監督ノ下ニ在ラザル行政官廳ヲ指定セムトスルトキハ豫メ其ノ所管大臣ト協議スルコトヲ要ス

第三條 第一條ニ於テ地方長官トアルハ船員法ノ適用アル船員ノ爭議ニ付テハ通信局長トシ前二條ニ於テ内務大臣トアルハ船員ノ爭議ニ付テハ通信大臣トス

第四條 調停委員會開設ノ請求ハ左ノ事項ヲ具シ文書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 爭議ノ發生シタル作業所ノ名稱及所在地
- 二 爭議ニ關係アル勞働者ノ概數

勞働爭議調停法施行令

三 代表者ニ依リ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ代表者タルコトヲ示スニ足ルベキ事項

四 調停委員會ニ關スル通知ヲ受クベキ場所

五 爭議ノ要求事項

六 爭議ノ經過概要

第五條 當事者ノ一方ヨリ調停委員會開設ノ請求アリタルトキハ行政官廳ハ他ノ當事者ニ之ヲ通知スベシ

第六條 調停委員會ヲ開設セムトスル旨ノ通知ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スベシ

行政官廳前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公示スベシ

第七條 調停委員會勞働爭議調停法第九條ノ規定ニ依リ調停手續ヲ終了シタルトキ又ハ其ノ期間ヲ延長シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ行政官廳ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ報告アリタルトキハ行政官廳ハ直ニ其ノ旨ヲ公示スベシ

第八條 調停委員會ノ議事ニ關スル總テノ書類ハ勞働爭議調停法第十六條ニ規定スル報告ト共ニ之ヲ行政官廳ニ提出スルコトヲ要ス

労働争議調停法第一條第一項第六號ノ事業ヲ定ムル件

トヲ要ス

第九條 労働争議調停法第十八條ノ規定ニ依リ辨償ヲ受クルコトヲ得ル費用ハ旅費、日當及止宿料トス
前項ノ旅費、日當及止宿料ハ別表ノ定額以内ニ於テ行政官廳之ヲ定ム

附 則

本令ハ争議調停法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

區分	委員	二等	九十錢	六圓	八圓
鐵道貨車馬賃一里	二等	九十錢	六圓	八圓	
日當一日					
止宿料一付					
備考	鐵道貨及船賃ハ運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スル場合ニハ上級ノ運賃トシ其ノ等級ヲ設ケザル場合ハ其ノ乗車又ハ乗船ニ要スル運賃トス				

六

労働争議調停法第一條第一項第六號ノ事業ヲ定ムル件

大正十五年七月九日
勅令第二百五十三號

左ニ掲グル部隊又ハ工作廠ニ於ケル兵器艦船ノ製造修理ノ事業ハ之ヲ労働争議調停法第一條第一項第六號ノ事業トス

- 陸軍航空本部
- 陸軍技術本部
- 陸軍兵器廠
- 陸軍造兵廠
- 海軍工廠

- 要港部工作部
- 海軍火藥廠
- 海軍技術研究所
- 海軍艦政本部製圖工場

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

労働争議調停法ニ依ル費用辨償ニ關スル件

大正十五年十二月十六日
勅令第三百三十八號

第一條 委員及労働争議調停法第十三條ニ規定スルモノノ旅費日當及止宿料ハ本令ニ依リ之ヲ支給ス

第二條 旅費、日當及止宿料ハ別表ノ定額ニ依リ之ヲ支給ス

第三條 旅費ハ鐵道貨、船賃及車馬賃トス

第四條 陸路旅行ヲ爲スニ當リ軌道ニ依ルコトヲ得ル場合ニ於テハ其ノ區間ニ限リ軌道貨ノ實費額ヲ支給ス鐵道旅行ヲ爲シ得ル區間ニ付軌道ニ依リタルトキ亦同ジ

第五條 會議ノ爲召集セラレ又ハ説明ノ爲出席ヲ求メラレタル場合ニ於ケル旅費ハ當事者ノ選定シタル委員、當事者又ハ其ノ代表者若ハ利害關係人ニ付テハ争議ノ發生シタル作業所、當事者ノ選定ニ係ル委員ニ於テ選定シタル委員又ハ參考人ニ付テハ其ノ住居ガ會議地又ハ會議地ヲ距ル三里以内ニ在ルトキハ之ヲ支給セズ

第六條 日當ハ止宿シタル場合タルト否トヲ問ハズ日數ニ應ジテ其ノ全額ヲ支給ス

第七條 止宿料ハ公務ノ都合ニ依リ止宿ノ必要アリ且現ニ止宿シタル場合ニ限リ之ヲ支給ス

第八條 調停委員會ノ會期労働争議調停法第九條第二項ノ規定ニ依ル費用辨償ニ關スル件

ニ依リ延長サレタルトキハ委員ノ受クルコトヲ得ル日當及止宿料ハ其ノ延長日數ニ付定額ノ二割ヲ減ズ
第九條 本令ニ規定スルモノヲ除ク外旅費、日當及止宿料ノ支給ニ關シテハ内國旅費規則ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

區分	委員	二等	九十錢	四圓	五圓
鐵道貨車馬賃一里	二等	九十錢	四圓	五圓	
日當一日					
止宿料一付					
備考	鐵道貨及船賃ハ運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スル場合ニハ上級ノ運賃トシ其ノ等級ヲ設ケザル場合ハ其ノ乗車又ハ乗船ニ要スル運賃トス				

七

第六類 其他ノ部

第六類 其他之部

目 次

○汽罐取締令……………	昭一〇年内務省令二〇號……………一
—汽罐構造規格……………	内務省告示二〇四號……………三五
○汽罐取締令施行細則……………	昭一〇年縣令二八號……………四九
○工業勞働者最低年齡法……………	大一二年法律三四號……………五九
○工業勞働者最低年齡法施行規則……………	大一五年内務省令一四號……………六〇
○勞働者募集取締令……………	大一三年内務省令三六號……………六一
○勞働者募集取締令施行細則……………	大一四年縣令二四號……………六九
○土石採取場安全及衛生規則……………	昭九年内務省令一一號……………七一
○重量物ノ重量標示ニ關スル件……………	昭五年内務省令一六號……………七五
○供給勞働者扶助令……………	昭七年勅令二號……………七五
○傭人扶助令……………	大七年勅令三八二號……………七七

汽罐取締令

昭和十年四月九日内務省令第二十號

第一章 總 則

- 第一條 本令ニ於テ汽罐ト稱スルハ左ニ掲グルモノヲ謂フ
- 一 密閉セル容器ニシテ専ラ大氣壓ヨリ高キ壓力ノ蒸汽ヲ發生スル汽罐
 - 二 密閉セル容器ニシテ其ノ罐水ノ溫度ヲ上昇セシメテ容器外ニ給湯スル温水罐
 - 三 密閉セル容器ニシテ蒸汽ヲ發生シ又ハ之ニ蒸汽ヲ送入シテ直接物品ヲ加熱スル蒸罐
- 第二條 本令ニ於テ傳熱面積ト稱スルハ汽罐ノ一面ガ熱ガスニ觸レ他ノ面ガ水ニ觸ルル部分ヲ熱ガスノ觸ルル側ニ於テ測レル面積ヲ謂フ
- 本令ニ於テ爐格面積ト稱スルハ汽罐ノ燃料焚燒ヲ目的トスル火格子ノ有效面積ヲ謂フ
- 本令ニ於テ制限壓力ト稱スルハ汽罐ノ最高使用ゲージ壓力ヲ謂フ
- 第三條 本令ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル汽罐ニハ之ヲ適用セズ
- 一 制限壓力〇・五疋平方釐以下ノ汽罐ニシテ罐胴ノ内徑三百釐以下、長六百釐以下又ハ傳熱面積一平方米以下ノモノ

汽罐取締令

- 二 傳熱面積三・五平方米以下ノ汽罐ニシテ大氣ニ開放セル蒸汽管又ハ水頭壓五米以下ノ豎管ヲ有シ其ノ管ノ内徑二十釐以上ノモノ
 - 三 水頭壓十米以下ノ温水罐ニシテ爐格面積〇・五平方米以下、傳熱面積八平方米以下ノモノ
 - 四 制限壓力〇・五疋平方釐以下ノ蒸罐ニシテ罐胴ノ内徑五百釐以下、長千三百釐以下又ハ內容積〇・二立方米以下ノモノ
 - 五 炊事用高壓釜
- 第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル汽罐ニハ第三十一條第一項ノ規定ハ之ヲ適用セズ
- 一 制限壓力四疋平方釐以下ノ汽罐ニシテ罐胴ノ内徑七百五十釐以下、長千三百釐以下又ハ傳熱面積三平方米以下ノモノ
 - 二 水頭壓二十米以下ノ温水罐ニシテ爐格面積一平方米以下又ハ傳熱面積十四平方米以下ノモノ
 - 三 蒸 罐
- 第五條 汽罐ヲ設置セントスル者ハ汽罐毎ニ別記第一號様式ニ依ル圖書正副二通ニ別記第二號様式ニ依ル汽罐明細書二通

汽罐取締令

(先ニ罐體検査ヲ受ケタルモノニ在リテハ其ノ罐體検査済ノ印ヲ捺捺シアル汽罐明細書及其ノ寫)ヲ添ヘ設置地(移動式汽罐ニ在リテハ其ノ主タル作業事務所所在地以下之ニ同ジ)地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ノ許可ヲ受クベシ

第六條 汽罐ハ罐體検査ニ合格シタルモノニ非ザレバ之ヲ設置スルコトヲ得ズ

前項ノ罐體検査ニ於テ行フ水壓試験ノ水壓力ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 制限壓力四・三疋平方糎ヲ超ユルトキハ其ノ壓力ノ一・三倍ニ三疋平方糎ヲ加ヘタル壓力
- 二 制限壓力一疋平方糎ヲ超エ四・三疋平方糎以下ナルトキハ其ノ壓力ノ二倍ノ壓力
- 三 制限壓力一疋平方糎以下ナルトキハ二疋平方糎ノ壓力
- 四 制限壓力以上ノ壓力ヲ受クルノ虞ナキ温水罐ニ在リテハ其ノ壓力ニ一疋平方糎ヲ加ヘタル壓力

第七條 罐體検査ヲ受ケントスル者ハ汽罐毎ニ別記第三號様式ニ依ル願書ニ別記第二號様式ニ依ル汽罐明細書二通(第五條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ヲ爲シタル地方長官ノ罐體検査ヲ受ケントスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ)ヲ添ヘ汽罐所在地地方長官ニ申請スベシ

罐體検査ニ合格シタルトキハ汽罐ニ別記第四號様式ニ依ル別印ヲ捺捺シ汽罐明細書一通ニ別記第五號様式ニ依ル罐體検査済ノ印ヲ捺捺シ之ヲ交付ス

前項ノ汽罐明細書ノ記載事項ニ變更アリタルトキハ速ニ書換ヲ受檢地地方長官ニ申請スベシ

第二項ノ汽罐明細書ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ受檢地地方長官ニ申請スルコトヲ得

第八條 汽罐設置工事竣功シタルトキハ汽罐毎ニ別記第六號様式ニ依ル願書ヲ提出シ設置地地方長官ノ竣功検査ヲ受クベシ竣功検査ニ合格シタルトキハ別記第七號様式ノ汽罐検査證ヲ交付ス

移動式汽罐ニ付テハ第一項ノ竣功検査ヲ省略シ先ニ第五條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタルモノニ在リテハ罐體検査ニ合格シタル際先ニ罐體検査ニ合格シタルモノニ在リテハ第五條ノ規定ニ依ル許可ノ際別記第七號様式ノ汽罐検査證ヲ交付ス

第九條 汽罐ハ汽罐検査證ノ交付ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

汽罐設置者ニ變更アリタルトキハ承継者ハ十日以内ニ設置地地方長官ニ届出デ汽罐検査證ノ書換ヲ受クベシ

汽罐検査證ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ設置地地方長官ニ申請スルコトヲ得

第十條 汽罐設置者汽罐又ハ其ノ設備ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル部分ヲ修繕又ハ變更セントスルトキハ別記第八號様式ニ依ル願書正副二通ニ汽罐検査證ヲ添ヘ設置地地方長官ノ許可ヲ受クベシ汽罐ノ制限壓力又ハ水頭壓ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

- 一 汽罐ノ罐胴、煙筒、火室、鏡板、冠板、管板及控
- 二 焚燒装置
- 三 汽罐ノ据付基礎

第十一條 前條第一號ノ部分ノ修繕又ハ變更工事竣功シタルトキハ別記第九號様式ニ依ル願書ヲ提出シ設置地地方長官ノ修繕又ハ變更検査ヲ受クベシ

汽罐ハ前項ノ検査ニ合格シタルモノニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十二條 汽罐検査ノ有効期間ハ一年トス但シ汽罐ノ構造又ハ管理ノ狀況ニ依リ地方長官ハ之ヲ短縮シ又ハ延長スルコトヲ得

第十三條 汽罐検査ノ有効期間満了後引續キ汽罐ヲ使用セントスルトキハ有効期間満了前別記第十號様式ニ依ル願書ヲ提出シ設置地地方長官ノ更新検査ヲ受クベシ

汽罐取締令

地方長官前二項ノ検査ヲ行フトキハ別記第十一號様式ニ依リ豫メ期日ヲ指定シテ之ヲ通知ス

第十四條 汽罐ニシテ内務大臣ノ指定スル保險業者ノ保險ニ付シタルモノニ付テハ地方長官ハ前條第一項ノ更新検査ハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ更新検査ヲ省略セラレタル汽罐ニ付保險契約ノ終了又ハ解除アルトキハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ保險業者ノ保險ニ付シタルトキハ十日以内ニ別記第十二號様式ニ依リ設置地地方長官ニ届出デベシ其ノ保險契約ノ更新、終了又ハ解除アリタルトキ亦同ジ

第一項ノ保險業者汽罐ノ検査ニ從事スル汽罐検査員ヲ選任セントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クベシ

内務大臣汽罐検査員ガ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナリト認ムルトキハ前項ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第十五條 汽罐ノ検査ヲ受ケントスルトキハ罐體ヲ冷却シ煙道ヲ掃除シ其ノ他受檢ニ必要ナル準備ヲ爲シ置クベシ

第十六條 汽罐設置者又ハ汽罐取扱主任者ハ検査ニ立會シ當該官吏ノ指揮ニ從フベシ

第十七條 當該官吏検査ノ爲必要アリト認ムルトキハ左ノ事項ヲ命ズルコトヲ得

- 一 汽罐ノ被覆物ノ全部又ハ一部ヲ取除クコト

汽罐取締令

- 二 汽罐ヲ移動スルコト
- 三 銚若ハ管ヲ抽出シ又ハ罐材ニ穿孔スルコト
- 四 水壓試験ヲ施行スルコト
- 五 鑄鐵製汽罐ニ付テハ解體スルコト
- 六 其ノ他必要ナル事項

第十八條 汽罐設置者ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スベシ

- 一 汽罐室其ノ他汽罐ノ設置場所ニハ係員ノ外濫リニ立入ルコトヲ禁止シ其ノ旨見易キ箇所ニ揭示スルコト
- 二 汽罐検査施設ニ汽罐取扱主任者ノ資格及氏名ヲ汽罐室其ノ他汽罐設置場所内ノ見易キ箇所ニ揭示スルコト但シ移動式汽罐ニ在リテハ汽罐取扱主任者ヲシテ之ヲ携帶セシムルコト
- 三 汽罐取扱主任者ヨリ汽罐ノ構造装置ノ缺陷ニ付告知ヲ受ケタルトキハ直ニ危害防止ニ付必要ナル措置ヲ爲スコト

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ汽罐設置者ハ遲滞ナク設置地地方長官ニ届出ヅベシ

- 一 汽罐ノ使用ヲ廢止セントスルトキ
- 二 一年以上汽罐ノ使用ヲ休止セントスルトキ
- 前項第一號ノ場合ハ汽罐設置者ハ汽罐検査證ヲ返納スベシ
- 第一項第二號ノ汽罐ヲ再ビ使用セントスルトキハ遲滞ナク設置地地方長官ニ届出ヅベシ

第二十四條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本令ノ規定ニ依ル許可ヲ取消スコトヲ得

- 一 本令ノ規定ニ依リ提出スベキ書類ニ虚偽ノ事項ヲ記載シタルトキ
- 二 汽罐設置者ノ所在不明三月以上ニ亘リタルトキ
- 三 汽罐ノ使用ヲ引續キ三年以上休止シタルトキ

第二章 汽罐ノ構造

第二十五條 汽罐ハ告示ヲ以テ別ニ定ムル構造上ノ要件ヲ具備シタルモノナルコトヲ要ス

應張力又ハ應曲力ヲ生ズル部分ニ付熔接ヲ行ヒタル汽罐ハ熔接ノ設備、設計、施行方法及熔接者ニ付熔接着手前汽罐熔接地地方長官ノ承認ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

地方長官支障ナシト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第三章 汽罐

第二十六條 汽罐ハ専用ノ建物又ハ適當ニ區劃セル場所ニ之ヲ設置スベシ但シ已ムラ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條 汽罐ノ据付位置ハ左ノ各號ニ依ルベシ

- 一 汽罐ノ外側ト天井又ハ屋根裏トノ間ニハ百二十釐以上ノ距離ヲ保有セシムルコト但シ安全弁其ノ他ノ装置検査及取扱ニ支障ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

汽罐取締令

四

前項ノ場合ニ於テ汽罐検査ノ有效期間満了後ナルトキハ再使用検査ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

前項ノ再使用検査ヲ受ケントスルトキハ別記第十三號様式ニ依リ設置地地方長官ニ申請スベシ

第二十條 汽罐ノ設置場所ニ於テ火災、汽罐ノ破裂又ハ之ニ準ズル事故發生シタルトキハ汽罐設置者ハ別記第十四號様式ニ依リ遲滞ナク設置地地方長官ニ届出ヅベシ但シ工場法施行規則第二十六條ノ規定ニ該當スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條 汽罐設置者ハ汽罐ニ付一切ノ檢限ヲ有スル汽罐管理人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ汽罐管理人ヲ選任セントスルトキハ汽罐設置者ハ汽罐管理人連署ノ上設置地地方長官ノ認可ヲ受クベシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ前項ノ認可ヲ取消スコトヲ得

汽罐管理人ハ本令ノ適用ニ付テハ汽罐設置者ニ代ルモノトス

第二十二條 地方長官ハ當該官吏ヲシテ汽罐ノ設置場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第二十三條 地方長官ハ汽罐ノ使用ニ關シ危害ヲ生ジ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ汽罐設置者ニ對シ除害若ハ豫防ノ爲必要ナル施設ヲ命ジ又ハ其ノ使用ヲ制限若ハ禁止スルコトヲ得

二 罐體ヲ露出セル汽罐又ハ堅型汽罐ニ在リテハ前號ノ外其ノ外側ト壁體トノ間ニ四十五釐以上ノ距離ヲ保有セシムルコト但シ罐體内ノ徑五百釐以下ニシテ長千釐以下ノモノニ在リテハ三十釐迄短縮スルコトヲ妨グズ

第二十八條 露出セル汽罐ノ外側又ハ金屬性煙突若ハ煙筒ヨリ十二釐以内ニ在ル可燃性材料ハ金屬以外ノ不燃性材料ヲ以テ適當ニ被覆スベシ

汽罐室又ハ汽罐設置場所ニ燃料ヲ貯藏スル場合ニハ汽罐外側ヨリ百二十釐以上ノ距離ヲ保有セシムベシ但シ防火ノ爲適當ナル障壁ヲ設ケル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 汽罐室ニハ二以上ノ出入口ヲ設クベシ但シ避難ニ支障ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條 本章ノ規定ハ移動式汽罐ニハ之ヲ適用セズ

第四章 汽罐士及汽罐取扱主任者

第三十一條 汽罐士免許ヲ受ケタル者(以下單ニ汽罐士ト稱ス)ニ非ザレバ汽罐ノ取扱ニ從事スルコトヲ得ズ但シ汽罐士ノ指揮監督ノ下ニ補助トシテ作業ニ從事スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

汽罐士免許ヲ分テ一級汽罐士免許及二級汽罐士免許ノ二種トス

第三十二條 汽罐士免許ハ汽罐士試験ニ合格シ且一級汽罐士免許ニ在リテハ一年以上、二級汽罐士免許ニ在リテハ六月以上

汽罐取締令

汽罐取扱ノ作業ニ從來シタル者ニ之ヲ與フ但シ左ノ各號ノ一

ニ該當スル者ニハ之ヲ與ヘズ

一 女子又ハ十八歳未満ノ者

二 精神病者、癲者、啞者又ハ盲者

三 汽罐士免許ノ取消ヲ受ケ一年ヲ經過セザル者

四 其ノ他地方長官ニ於テ不適當ト認ムル者

第三十三條 汽罐士試験ハ左ノ各號ノ科目ニ關シ之ヲ行フ

一 汽罐構造(設計及材料ニ關スル事項ヲモ含ム)

二 汽罐取扱方法

三 燃料及燃燒

四 汽罐取締ニ關スル法令

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付テハ一級汽罐士試

験ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一 工業學校ニシテ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トス

ル修業年限五年ノモノ若ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學

資格トスル修業年限三年ノモノ又ハ之ト同等以上ノ學校ニ

於テ機械又ハ船用機關ニ關スル學科目ヲ修メ之ヲ卒業シタ

ル者

二 前號ト同等以上ノ學識經驗ヲ有スト認メタル者

三 二級汽罐士免許ヲ受ケ二年以上汽罐取扱ニ從事シタル者

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付テハ二級汽罐士試験ノ全部又

ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一 前項第一號ニ定ムル以外ノ工業學校ニ於テ機械若ハ船用

機關ニ關スル學科目ヲ修メ之ヲ卒業シタル者又ハ地方長官

ノ指定シタ青年學校ニ於テ汽罐ニ關スル學科目ヲ修メ之ヲ

卒業シタル者

二 前號ト同等以上ノ學識經驗ヲ有スト認メタル者

第三十五條 汽罐士試験ヲ受ケントスル者ハ別記第十五號樣式

ニ依リ受験地地方長官ニ願出ヅベシ

汽罐士試験ニ合格シタルトキハ別記第十六號樣式ノ汽罐士試

験合格證書ヲ交付ス

第三十六條 汽罐士免許ヲ受ケントスル者ハ別記第十七號樣式

ニ依リ前條ノ試験ヲ受ケタル地ノ地方長官ニ申請スベシ

地方長官汽罐士免許ヲ與ヘタルトキハ別記第十八號樣式ノ汽

罐士免許證書ヲ交付ス

第三十七條 汽罐士左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ地方長官ハ

其ノ免許ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

一 故意又ハ重大ナル過失ニ因リ火災、汽罐ノ破裂又ハ之ニ

準ズル事故ヲ惹起シタルトキ

二 第三十二條第二號又ハ第四號ニ該當スルニ至リタルトキ

三 汽罐取扱主任者タル汽罐士第四十條第一項ノ規定ニ違反

シタルトキ

前項ノ處分ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク汽罐士免許證書ヲ返納ス

ベシ

汽罐士免許ノ停止期間満了シタルトキハ汽罐士免許證書ヲ還付

ス

第三十八條 汽罐士免許證書ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ

再交付ヲ別記第十九號樣式ニ依リ免許ヲ受ケタル地ノ地方長

官ニ申請スルコトヲ得

第三十九條 汽罐設置者ハ汽罐取扱主任者ヲ選任スベシ

前項ノ汽罐取扱主任者ハ左ノ各號ニ該當スル者ナルコトヲ要

ス但シ第四條ノ汽罐ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 取扱汽罐ノ傳熱面積合計二十五平方米以上又ハ制限壓力

七疋平方以上ノモノニ在リテハ一級汽罐士

二 其ノ他ノモノニ在リテ一級汽罐士又ハ二級汽罐士

汽罐設置者第一項ノ規定ニ依リ汽罐取扱主任者ヲ選任シタ

ルトキハ其ノ履歷書及汽罐士免許證書ノ寫(前項但書ノ場合

ヲ除ク)ヲ添ヘ設置地地方長官ニ届出ヅベシ

地方長官汽罐取扱主任者ガ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナリト認

ルムトキハ其ノ改任ヲ命ズルコトヲ得

第四十條 汽罐取扱主任者ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スベシ

一 水面測定裝置ハ一日ニ一回以上其ノ機能ヲ検査スルコト

二 罐水ノ汚濁ニ注意シ適宜排水ヲ行フコト

汽罐取締令

三 給水装置ノ機能ヲ保持スル爲常ニ注意スルコト

四 安全弁ノ機能ヲ保持スル爲常ニ注意スルコト

五 汽罐検査證書ニ記載シタル制限壓力ヲ超エテ蒸氣壓ヲ上昇

セシメザルコト

六 危沓豫防ニ注意シ異狀ヲ認メタルトキハ直ニ適當ナル措

置ヲ爲スコト

汽罐設置者ハ汽罐取扱主任者ガ前項各號ノ事項ヲ遵守スルコ

トヲ妨グルコトヲ得ズ

第五章 手数料

第四十一條 汽罐設置者第七條第一項(罐體検査)、第八條第一

項(竣功検査)、第十一條第一項(修繕、變更検査)、第十三條

第一項(更新検査)又ハ第十九條第五項(再使用検査)ノ検査

ヲ受ケントスルトキハ別表第一號ニ定ムル手数料ヲ納付スベ

シ

第四十二條 汽罐士試験若ハ汽罐士免許ヲ受ケントスル者又ハ

汽罐士免許證書ノ再交付ヲ受ケントスル者ハ別表第二號ニ定ム

ル手数料ヲ納付スベシ

第四十三條 前二條ノ手数料ハ收入印紙ヲ用ヒ願書ニ之ヲ貼付

スベシ

既納ノ手数料ハ之ヲ還付セズ但シ第三十四條ノ規定ニ依リ汽

罐士試験ノ全部ヲ省略シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六章 罰 則

第四十四條 左ニ掲グル者ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ニ處ス

一 第五條(汽罐設置許可)、第六條第一項(罐體検査)、第九條第一項(汽罐検査證)、第十條(汽罐修繕、變更許可)、第十一條第二項(汽罐修繕、變更検査)、第十四條第四項(汽罐検査員ノ認可)、第十五條(汽罐検査ノ準備)、第十六條(汽罐検査ノ立會)第十八條(汽罐設置者ノ遵守事項)、第十九條第四項(汽罐再使用検査)、第二十六條乃至第二十九條(汽罐室)、第三十一條第一項(汽罐士免許)、第三十九條第一項(汽罐取扱主任者ノ選任)及第四十條(汽罐取扱主任者ノ遵守事項及汽罐設置者ノ義務)ノ規定ニ違反シタル者

二 第十三條第二項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ検査ヲ受クルコトヲ怠リタル者、第十七條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ命令ニ從ハザル者又ハ第二十三條ノ規定ニ依ル地方長官ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者

第四十五條 第七條第三項(汽罐明細書書換手續)、第九條第二項(汽罐設置者變更手續)、第十四條第三項(保險契約及其ノ更新、終了又ハ解除ノ届出)、第十九條第一項乃至第三項(汽罐使用ノ廢止又ハ休止ノ届出、汽罐検査證ノ返納及汽罐再使用ノ届出)、第二十條(事故ノ届出)、第三十七條第二項(汽罐

士免許證ノ返納)及第三十九條第三項(汽罐取扱主任者ノ届出)ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第四十六條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ニ處ス

第四十七條 汽罐設置者又ハ汽罐管理人ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ本令又ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十八條 本令ニ依ル罰則ハ汽罐管理人ヲ選任シタル場合ニ在リテハ汽罐管理人ニ、法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ、未成年者又ハ祭治産者ニ在リテハ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第七章 附 則

第四十九條 本令ハ昭和十年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十條 地方長官ハ本令施行ノ際汽罐取締ニ關スル道府縣ノ命令ニ依リ設置又ハ修繕ノ許可申請中ノ汽罐ニ付テハ本令ノ規定ニ拘ラズ從前ノ規定ニ依リ處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ本令ニ依リ處分シタルモノト看做ス

第五十一條 本令施行前汽罐取締ニ關スル道府縣ノ命令ニ依リ第二項ノ場合ニ在リテハ第四十二條ノ規定ニ依ル手数料ハ之ヲ徴收セズ

検査若ハ試験又ハ許可若ハ認可ヲ受ケタル汽罐ハ本令ニ依リ検査又ハ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依ル汽罐検査ノ有効期間ハ之ヲ變更セズ但シ本令施行後一年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第五十二條 本令施行ノ際現ニ許可又ハ検査ヲ要セズシテ使用スル汽罐ニシテ本令ノ規定ニ依リ新ニ許可又ハ検査ヲ受クルヲ要スルモノニ付テハ本令施行ノ日ヨリ一年以内ハ本令ノ規定ニ拘ラズ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第五十三條 本令施行ノ際現ニ汽罐取締ニ關スル道府縣ノ命令ニ依リ汽罐取扱ニ從事スル者ハ本令施行ノ日ヨリ一年以内ハ本令ノ規定ニ拘ラズ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

本令施行前汽罐取締ニ關スル道府縣ノ命令ニ依リ汽罐取扱ニ關スル資格ニ付地方長官ノ證明若ハ免許ヲ有スル者又ハ本令施行前一年以上汽罐ノ取扱ニ從事シタル者ハ本令施行ノ日ヨリ一年以内ニ本人ノ申請アリタル場合ニ限り第三十二條ノ規定ニ拘ラズ左ノ區別ニ從ヒ汽罐士免許ヲ與フ

一 取扱汽罐ノ傳熱面積合計二十五平方米以上又ハ制限壓力七疋平方以上ノ汽罐ノ取扱ニ付資格又ハ免許アル者又ハ其ノ取扱主任者ニハ一級汽罐士

二 其ノ他ノ者ニ在リテハ二級汽罐士

第三十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

汽罐取締令諸様式

(第一號様式)

汽罐設置願

左記汽罐設置致度候間御許可相成度此段及御願候也

年 月 日

(地方長官) 殿

設置者

名 印

一	事業ノ名稱及種類
二	設置地名番號、市街地建築物法ニ依ル地域並地區
三	設置者住所氏名、生年月日(法人ノ場合ニ在リテハ名稱、主タル事務所所在地、代表者氏名)
四	敷地周圍ノ狀況
五	汽罐室(蒸罐設置室)ノ構造及床面積
六	使用ノ目的
七	一日ノ最長使用時間
八	燃料ノ種類及一日ノ最大消費量
九	焚火方法
一〇	汽罐ノ据付及其ノ基礎並ニ煙道ノ構造

(縦二六種、横三七種)

二	汽罐附屬設備ノ種類、構造、基數及配置
(イ)	給水装置ノ種類、能力ヲ示ス標準及箇數
(ロ)	過熱器ノ材料、主要寸法及蒸溫度
(ハ)	過熱方法ノ概要
(ニ)	給水加熱装置ノ概要
(ホ)	空氣加熱装置ノ概要
(ヘ)	給水加熱槽ノ材料、主要寸法及接手ノ種類
(ト)	機械的連動装置ノ概要並ニ主要寸法又ハ能力ヲ示ス標準
(チ)	焚燒装置ノ概要
三	煙突ノ構造、種別及主要寸法
(イ)	煙突ノ構造
甲	鐵板製
乙	鐵筋コンクリート
丙	其他
(ロ)	煙突ノ避雷設備ノ構造概要
(ハ)	煙突ト連絡スル汽罐ノ種類、型式及基數並ニ其ノ爐格面積又ハ窯爐ノ種類及其ノ基數並ニ其ノ爐格面積

汽罐取締令諸様式

汽機取給合諸様式

工事竣功期日

- 備考
- 一 移動式汽機ニ在リテハ第二號欄ニ主タル作業事務所ヲ記入スルコト
 - 二 X印ヲ附シアル欄ニ付テハ別紙圖面ヲ添附スルコト
 - 三 本様式規定ノ欄ニシテ別紙圖面ニ記載シタルモノハ之ヲ記入スルコトヲ要セズ
 - 四 願ニ關係ナキ事項ハ省略スルコトヲ得
 - 五 本様式ニ記入シ盡サザル事項ニ付テハ別ニ欄ヲ設ケ又ハ別紙ニ記載シ添附スルコト
 - 六 同一型式ノモノニ基以上設置スル場合ニ於テハ一基ニ付詳記シ他ハ省略スルコトヲ得

(第二號様式中) (鋼製汽機)(蒸機ヲ除ク)

汽機明細書

一	汽機ノ種類及型式
二	制限壓力水又ハ頭壓
三	汽機ノ構造
(イ)	爐格面積
(ロ)	傳熱面積
(ハ)	補脚ノ材料、大内經及板ノ厚
(ニ)	傳筒又ハ火室板ノ材料、最大内徑、環長及板ノ厚
(ホ)	鏡板、冠板及管板ノ材料、形狀及板ノ厚

(縱二六浬、横三七浬)

(ヘ)	目板ノ材料及板ノ厚
(ト)	控ノ材料、種類及徑又ハ厚
(チ)	鑄鋼ノ接手 甲 縱接手ノ種類、銑列數、銑口徑及銑心距 乙 周接手ノ種類、銑列數、銑口徑及銑心距
(リ)	爐筒又ハ火室板ノ接手 甲 縱接手ノ種類、銑列數、銑口徑及銑心距 乙 周接手ノ種類、銑列數、銑口徑及銑心距
(ヌ)	傳管又ハ水管ノ材料、管徑、長、厚及數
(ル)	人孔、檢査孔及掃除孔ノ大及數
(ヲ)	排水管ノ材料及内徑(排水コック又ハ排水弁ノ取付部ニ於テ測リタルモノ)
(ワ)	安全弁ノ種類、弁徑及數
(カ)	逸水裝置ノ概要
(ヨ)	壓力計ノ最大指度數
(タ)	水面測定裝置ノ種類及數(硝子水面計ニ在リテハ硝子管ノ内徑ヲ併記スルコト)
四	製作者名及製作年月並ニ經歷ノ概要

汽機取給合諸様式

五	熔接箇所及其ノ施行方法
六	熔接施行者名
七	水圧試験壓力
八	検査場所及年月日
九	検査官氏名印

備考 一 X印ヲ附シアル欄ニ付テハ別紙圖面ヲ添付スルコト
 二 *印ヲ附シアル欄ハ出願人ニ於テ記入セザルコト
 三 本様式規定ノ欄ニシテ別紙圖面ニ記載シタルモノハ之ヲ記入スルコトヲ要セズ
 四 本様式ニ記入シ盡サザル事項ニ付テハ別ニ欄ヲ設ケ又ハ別紙ニ記載シ添付スルコト

(第二様式乙) (鑄鐵製汽罐)

(縦二六釐、横三七釐)

汽罐明細書

一	汽罐ノ種類、型式及節數
二	制限壓力又ハ水頭壓
三	汽罐ノ構造
(イ)	體格面積
(ロ)	傳熱面積

(ハ)	検査孔及掃除孔ノ大及數
(ニ)	排水管ノ材料及内徑(排水コック又ハ排水弁取付部ニ於テ測リタルモノ)
(ホ)	安全弁ノ種類、弁徑及數
(ヘ)	逸水装置ノ概要
(ト)	壓力計ノ最大指度數又ハ水高計ノ最大指度數
(チ)	水面測定装置ノ種類及數(硝子水面計ニ在リテハ硝子管ノ内徑ヲ併記スルコト)
四	製作者名及製作年月並ニ經歷ノ概要
五	水圧試験壓力
六	検査場所及年月日
七	検査官氏名印

備考 一 X印ヲ附シアル欄ニ付テハ別紙圖面ヲ添付スルコト
 二 *印ヲ附シアル欄ハ出願人ニ於テ記入セザルコト
 三 本様式規定ノ欄ニシテ別紙圖面ニ記載シタルモノハ之ヲ記入スルコトヲ要セズ
 四 本様式ニ記入シ盡サザル事項ニ付テハ別ニ欄ヲ設ケ又ハ別紙ニ記載シ添付スルコト

(第二様式丙) (蒸罐)

(縦二六釐、横三七釐)

汽罐明細書

一	蒸罐ノ種類及型式
二	制限圧力
三	蒸罐ノ構造
(イ)	蒸罐ノ内容積
(ロ)	罐胴ノ材料、最大内徑、全長及板ノ厚
(ハ)	鏡板ノ材料、形狀及板ノ厚
(ニ)	蓋板ノ材料、形狀及板ノ厚
(ホ)	蓋板締付方法ノ概要
(ヘ)	締付用螺釘及留釘ノ材料、徑、螺子ノ種類及數
(ト)	罐胴ノ接手ノ種類、徑、列數、接手ノ種類、徑、列數、銑口徑及銑心距
(チ)	安全弁ノ種類、弁徑及數
(リ)	給汽方法ノ概要
(ヌ)	壓力計ノ最大指度數

四	(ル)排汽及排水方法ノ概要 製作者名及製作年月並ニ經歷ノ概要
五	熔接ヲ行ヒタル箇處及其ノ施行方法
六	熔接施行者名
七	水壓試験壓力
八	検査場所及年月日
九	検査官氏名印

- 備考
- 一 ×印ヲ附シアル欄ニ付テハ別紙圖面ヲ添付スルコト
 - 二 *印ヲ附シアル欄ハ出願人ニ於テ記入セザルコト
 - 三 本様式規定ノ欄ニシテ別紙圖面ニ記載シタルモノハ之ヲ記入スルコトヲ要セズ
 - 四 本様式ニ記入シ盡サザル事項ニ付テハ別ニ欄ヲ設ケ又ハ別紙ニ記載シ添付スルコト

(第三號様式)

罐體検査願

收入
印紙

- 一 汽罐ノ種類
- 一 傳熱面積又ハ内容積
- 一 設置許可指令番號
- 一 受檢地名番號
- 一 受檢希望日

右汽罐罐體検査相受度此段及御願候也

年 月 日

(地方長官) 殿

住所

製作者又ハ設置者

氏

名

備考 收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

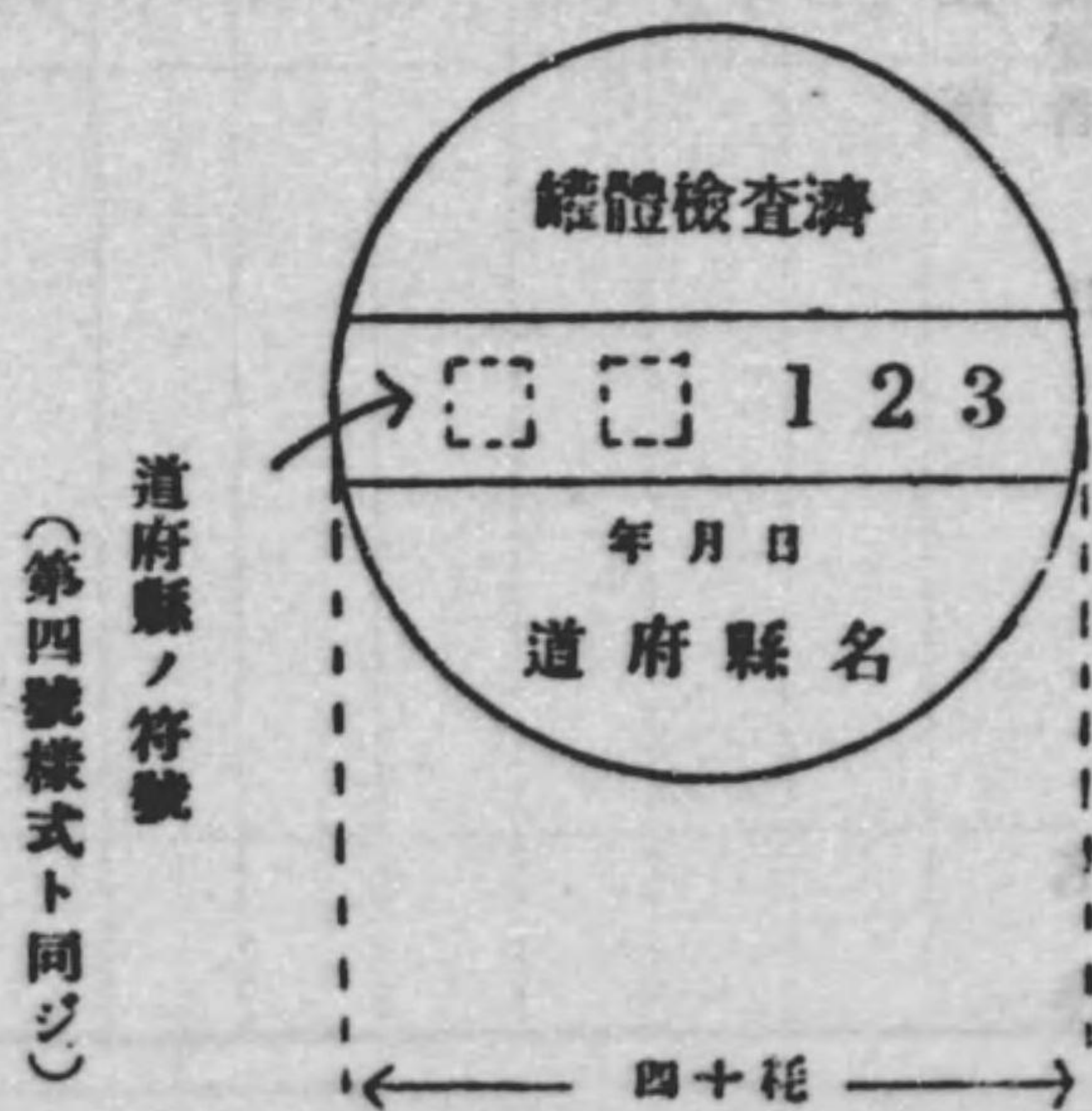
(第四號様式)

道府縣符號表

ノ文 大字		0 1 2 3 4 5 6 7 8 9															
○線幅長 ノ太七九 五耗耗		道府縣符號															
愛知縣	三重縣	奈良縣	栃木縣	茨城縣	千葉縣	群馬縣	埼玉縣	新潟縣	長崎縣	兵庫縣	神奈川縣	大阪府	京都府	警視廳	北海道	道府縣名	符號
愛知縣	三重縣	奈良縣	栃木縣	茨城縣	千葉縣	群馬縣	埼玉縣	新潟縣	長崎縣	兵庫縣	神奈川縣	大阪府	京都府	警視廳	北海道	道府縣名	符號
鳥根縣	鳥取縣	富山縣	石川縣	福井縣	秋田縣	山形縣	青森縣	岩手縣	福島縣	宮城縣	長野縣	岐阜縣	滋賀縣	山梨縣	静岡県	道府縣名	符號
鳥根縣	鳥取縣	富山縣	石川縣	福井縣	秋田縣	山形縣	青森縣	岩手縣	福島縣	宮城縣	長野縣	岐阜縣	滋賀縣	山梨縣	静岡県	道府縣名	符號
沖繩縣	鹿兒島縣	宮崎縣	熊本縣	佐賀縣	大分縣	福岡縣	高知縣	愛媛縣	香川縣	徳島縣	和歌山縣	山口縣	廣島縣	岡山縣	道府縣名	符號	
沖繩縣	鹿兒島縣	宮崎縣	熊本縣	佐賀縣	大分縣	福岡縣	高知縣	愛媛縣	香川縣	徳島縣	和歌山縣	山口縣	廣島縣	岡山縣	道府縣名	符號	

備考 鑄鐵製汽罐ノ場合ハ銘板ニ押刻スルコト

(第五號様式)



汽罐取締令附錄式

(第六號樣式)

<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> 收入 印紙 </div>	汽罐竣工検査願
<ul style="list-style-type: none"> 一 汽罐ノ種類 一 傳熱面積又ハ内容積 一 設置地名番號 一 罐體検査刻印 一 設置許可指令番號 一 受檢希望日 	右設置工事竣功致候間御検査相成度此段及御願候也 年 月 日
(地方長官) 殿	住所 設置者 氏 名

備考 收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

(第七號樣式)(表面)(縦一七種、横二四種)

年月日	至自	至自	至自	至自	至自	有效期間 官検査	ハ水頭 壓力又	種類	罐體 検査	設置地及 設置者氏名	汽罐検査證	第 號
	年	年	年	年	年							
府縣團	至自	至自	至自	至自	至自	有效期間 官検査	燃	熱大	面及	積傳		
	年	年	年	年	年							
	月	月	月	月	月							
	月	月	月	月	月							
	年	年	年	年	年							
	月	月	月	月	月							

(第七號樣式)(裏面)

日	月	月	月	月	日	月	月	月	月	日	附 記 事 欄	官 檢 查 印
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年		

汽罐取締令附錄式

汽罐取締令附様式

(第八號様式)

汽罐變更願

左記汽罐變更致度候間御許可相成度此段及御願候也

年 月 日

(地方長官) 殿

住所
設置者 氏

名 〇

一	事業ノ及名稱種類
二	設置地地名番號
三	汽罐検査證番號
四	變更箇處及方法
五	變更ノ理由
六	修繕施行者住所氏名
七	竣功期日

備考

- 一 〇印ヲ附シアル欄ニ付テハ別紙圖面ヲ添付スルコト
- 二 熔接ニ依ル修繕ニ在リテハ其ノ設備、設計及施行方法ヲ記入スルコト
- 三 本様式規定ノ欄ニシテ別紙圖面ニ記載シタルモノハ之ヲ記入スルコトヲ要セズ
- 四 本様式ニ記入シ盡サザル事項ニ付テハ別ニ欄ヲ設ケ又ハ別紙ニ記載シ添付スルコト

(第九號様式)

汽罐修繕検査願

收入
印紙

- 一 汽罐ノ種類
- 一 傳熱面積又ハ内容積
- 一 設置地地名番號
- 一 汽罐検査證番號
- 一 修繕許可指令番號
- 一 受檢希望日

右修繕工事竣功致候間御検査相成度此段及御願候也

年 月 日

住所

設置者 氏

名 〇

(地方長官) 殿

備考 收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

汽罐取締令附様式

(第十號様式)

更新検査願

収入
印紙

- 一 汽罐ノ種類
- 一 傳熱面積又ハ内容積
- 一 設置地地名番號
- 一 汽罐検査證番號
- 一 汽罐検査證有效期間
- 一 受檢希望日
- 一 移動式汽罐ニ在リテハ希望受檢地

右更新検査相受度此段及御願候也

自 年 月 日
至 年 月 日

住所

設置者氏

名

(地方長官) 殿

備考 収入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

(第十一號様式)

年 月 日

汽罐検査通知書

一 汽罐検査證番號 第 號

一 検査期日 月 日

一 注意事項

右ノ通更新検査施行候條汽罐取締令ニ依リ相當準備相成度
臨時検査施行候條汽罐取締令ニ依リ相當準備相成度

(汽罐設置者) 殿

府 縣 團

(縦二六釐、横一八・五釐)

(第十二號様式)

保險契約更新
終了届

- 一 汽罐ノ種類
- 一 汽罐検査證書號
- 一 設置地名番號
- 一 保險者名
- 一 保險金額
- 一 保險契約年月日
- 一 保險契約期間

更新
右保險契約解除致候間此段及御届候也
終了

年 月 日

自 年 月 日
至 年 月 日

住所
設置者氏

名

(地方長官) 殿

(第十三號様式)

汽罐再使用検査届

收入
印紙

- 一 汽罐ノ種類
- 一 傳熱面積又ハ内容積
- 一 設置地名番號
- 一 汽罐検査證書號
- 一 使用休止年月日
- 一 受檢希望日

右汽罐再使用検査相成度此段及御願候也

年 月 日

住所
設置者氏

名

(地方長官) 殿

備考 收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

汽罐取締令諸様式

汽罐取締令諸様式

(第十六様式)

汽罐士試験合格證書

第 號

一 (二) 級 汽 罐 士

右汽罐士試験ニ合格シタルコトヲ證ス

年 月 日

三〇

(縦二六割、横一八・五割)

氏

(生年 月 日)

名

廳 府 縣 印

(第十七様式)(表面)(縦二六割、横一八・五割)

一 (二) 級 汽 罐 士 免 許 願

收 入
印 紙

一 (二) 級 汽 罐 士 免 許 相 成 度 此 段 及 御 願 候 也

年 月 日

住 所

氏

名

(第十七様式)(裏面)

(地方長官)殿

備考 收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セ

ザルコト

氏名	
生年月日	
本籍	
住所	
汽罐士試験合格證書番號	
學校及職業ニ關スル履歷	
寫眞	備考 寫眞ハ出願前六月以內ニ撮影シタル名刺形半身脱帽ノモノ一葉
備考	

汽罐取締令諸様式

三一

(第十八號様式) (縦八割、横一八割)

汽罐士免許證

氏名 (生年月日)

(二)級汽罐士

寫眞

縣 府 印

第 號

年 月 日 交付

廳 府 縣 印

六 割

(第十九號様式)

汽罐士免許證再交付願

印 紙 入

一 免許證種目 級汽罐士

一 免許證再交付願出ノ理由

右汽罐士免許證再交付相成度此段及御願候也

年 月 日

住 所

氏 名

(地方長官) 殿

備考

一 出願前六月以内ニ撮影シタル名刺形半身
脱帽ノ寫眞ニ葉ヲ添付スルコト

二 毀損ニ因ル再交付願出ノ場合ハ該免許證
ヲ添付スルコト

三 收入印紙ハ出願人ニ於テ消印セザルコト

別表手數料

第一號 (甲)

種別	傳熱面積 (平方米)	及再使用検査
五未滿	〇・七〇円	及再使用検査
十五未滿上	一・五〇円	及再使用検査
四十未滿上	五・〇〇円	及再使用検査
四十以上	七・〇〇円	及再使用検査
百未滿	一〇・〇〇円	及再使用検査
百以上	一四・〇〇円	及再使用検査
二百未滿	一七・〇〇円	及再使用検査
二百以上		及再使用検査
三百未滿		及再使用検査
三百以上		及再使用検査

第一號 (乙)

種別	内容積 (立方米)	及再使用検査
〇・九未滿	〇・五〇円	及再使用検査
二〇・九未滿上	一・〇〇円	及再使用検査
五二未滿上	二・〇〇円	及再使用検査
十五未滿上	三・〇〇円	及再使用検査
十以上	五・〇〇円	及再使用検査

第二號

級別	種別	汽罐士試驗手數料	汽罐士免許手數料	再汽罐士免許證交付手數料
一級汽罐士	一級汽罐士	一・〇〇円	一・五〇円	〇・五〇円
二級汽罐士	二級汽罐士	〇・五〇円	一・〇〇円	〇・五〇円

汽罐構造規格

昭和十年四月九日内務省告示第二百四號

汽罐取締令第二十五條ノ規定ニ依ル汽罐構造上ノ要件制限壓力
三十五疋平方種以下ノモノニ付左ノ通定ム

第一章 汽罐ノ材料

第一條 汽罐ノ材料ハ左表ニ掲グルモノヲ使用スルコトヲ要ス

但シ之ト同等以上ノ材料ヲ使用スル場合又ハ制限壓力十疋平
方種以下ノ汽罐ニ付地方長官支障ナシト認ムル場合ニ此ノ限
ニ在ラズ

種 別		材 料					註
種	別	材	質	寸	法		
鋼	罐	鋼板	第一種				
	罐胴	鋼板	第一種				
板	罐胴(火焰ニ觸ルル場合)	鋼板	第三種				
	板 控	鋼板	第一種				
板	焰管其ノ他火焰ニ觸ルルモノ	鋼板	第一種				
	壓力ヲ受クル部分ニシテ鍛接又ハ鋳出等ノ爲加熱スルモノ	鋼板	第四種				

日本標準規格第二十二條

汽罐構造規格

管板ノ煙管集ノ下部ニ人孔ヲ設クベシ但シ煙管ノ内徑千二百
耗未滿ニシテ人孔ヲ設ケ難キモノ又ハ管板ノ縱中央部ノ管列
間ニ若ハ外方管列ト煙管トノ間ニ二百三十耗以上ノ間隙アル
モノニ付テハ適當ナル大ヲ有スル掃除孔ヲ以テ之ニ代フルコ
トヲ得

第十一條 堅型汽罐ノ煙管ニハ水脚部ニ二以上ノ掃除孔ヲ設ク
ベシ

第十二條 堅型多管式汽罐ノ煙管ニハ火室冠板ノ高ト同一ノ高
ノ位置ニ二以上ノ検査孔ヲ設クベシ

第十三條 水管ヲ有スル堅型汽罐ノ煙管ニハ水管ヲ掃除シ得ル
位置ニ適當數ノ掃除孔ヲ設クベシ

第十四條 「コルニツシユ」型汽罐ノ前鏡板ノ下部ニハ掃除孔ヲ
設クベシ

第十五條 煙管、鏡板及管板ニ設クル人孔、掃除孔又ハ検査孔
ハ相當ノ強力ヲ有スル緣環又ハ突環ニテ補強スベシ但シ掃除
孔又ハ検査孔ノ長徑百五十耗未滿ノモノハ此ノ限りニ在ラズ
第十六條 控ニ依リ補強セラレザル鏡板ハ左ノ各號ノ條件ヲ具
備スルコトヲ要ス

- 一 取付鈎ノ曲内半徑(r)ハ鏡板ノ厚(t)ノ四倍以上ト爲ス
コト
- 二 取付鈎ノ彎曲起部ト副板端トノ間(W)ハ六耗以上ト爲ス

第二十一條 安全弁ハ其ノ徑三十八耗未滿ナルトキハ之ヲ發條
式ト爲スコトヲ得ズ但シ「ポップ」發條式安全弁其ノ他機能確
實ナルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 安全弁ハ其ノ弁ニ加ハル蒸氣ノ全壓力六百耗ヲ超
ユル場合ハ之ヲ槓桿式ト爲スコトヲ得ズ

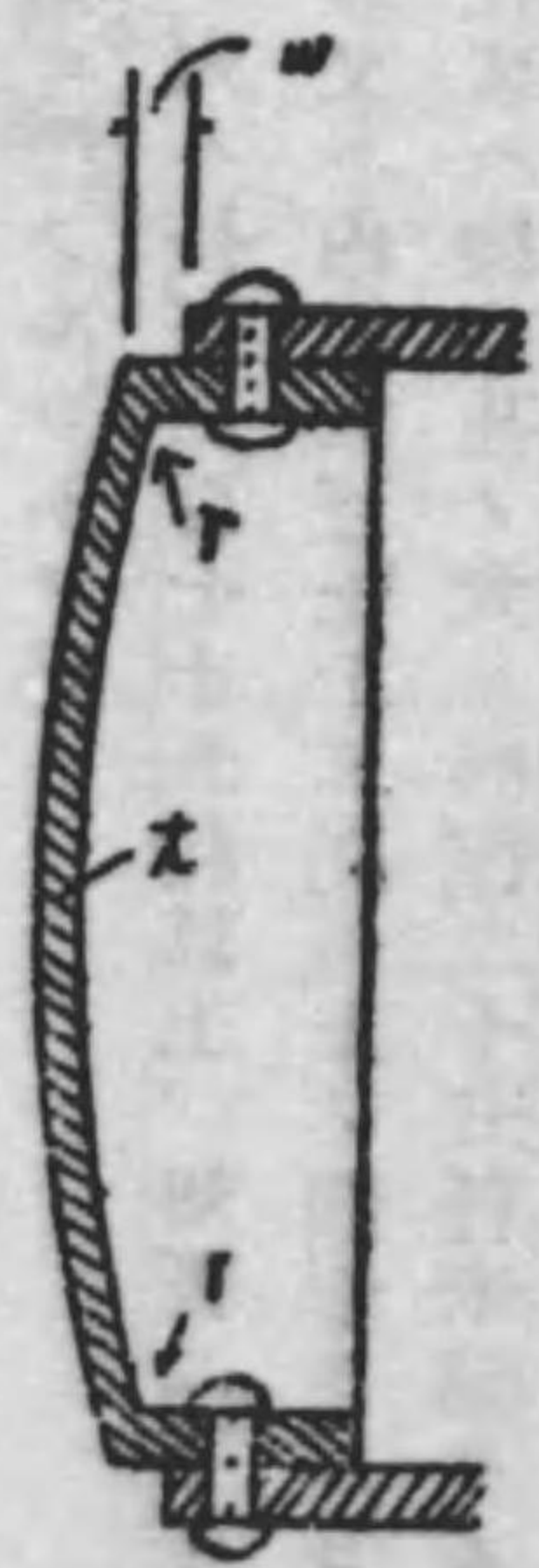
第二十三條 安全弁ノ弁及弁座ニハ容易ニ腐蝕スルコトナキ材
料ヲ使用スルコトヲ要ス

第二十四條 汽罐(温水罐及蒸氣罐ヲ除ク)ニハ二以上ノ硝子水面
計ヲ備フルコトヲ要ス但シ堅型汽罐ニシテ煙管ノ内徑七百五
十耗未滿ノモノ及暖房ニ専用セララル鑄鐵製汽罐ニ在リテハ
其ノ一ハ硝子水面計ニ非ザル水面測定裝置タルコトヲ妨グズ
硝子水面計ノ硝子管ハ内徑十耗以上又ハ之ニ相當スル斷面積
ヲ有スルコトヲ要ス

硝子水面計ハ其ノ硝子面ノ看取シ得ル最下部ガ安全低水面ヲ
指示スベキ位置ニ取付クルコトヲ要ス
前頂ノ安全低水面トハ汽罐使用中維持セラルベキ最低ノ水面
ヲ謂フ

第二十五條 汽罐(蒸氣罐ヲ除ク)ニハ隨時單獨ニ汽罐ノ最大蒸發
量以上ヲ給水シ得ル二以上ノ給水裝置ヲ備フベシ但シ第一ノ
給水裝置ガ二以上ノ給水ポンプト結合シタルモノナル場合ニ
於テハ第二ノ給水裝置ノ給水能力ハ汽罐ノ最大蒸發量ノ二十

コト



第十七條 堅型汽罐ノ火室冠板ト冠板トヲ連結スル煙管ノ内徑
ハ煙管ノ内徑ノ六分ノ一以上タルコトヲ要ス

第十八條 管寄ノ材料ニハ軟鋼又ハ鑄鋼ヲ使用スルコトヲ要ス
但シ工作ニ缺陷ナキ限り材質良好ナル鑄鋼ヲ使用スルコトヲ
妨グズ

第十九條 汽罐ニハ二以上(温水罐又ハ蒸氣ニ在リテハ一以
上)ノ安全弁ヲ設クベシ但シ爐格面積〇・六平方米又ハ傳熱
面積十二平方米以下ノモノニ在リテハ之ヲ一ト爲スコトヲ得
温水罐ニ在リテハ制限壓力ヲ超ユル場合直ニ過水スル安全裝
置ヲ以テ前項ノ安全弁ニ代フルコトヲ得

第二十條 安全弁ノ徑ハ二十五耗以上タルコトヲ要ス
煙管ノ内徑五百耗以下、煙管ノ長千耗以下、傳熱面積二平
方米以下及制限壓力五耗平方耗以下ノ小型汽罐(以下單ニ小
型汽罐ト稱ス)ニ在リテハ安全弁ノ徑ハ前項ノ規定ニ拘ラズ
十九耗以上ト爲スコトヲ妨グズ

五バーセント以上ニシテ第一ノ給水裝置中ノ給水ポンプ中最
大ノモノト同等以上ノモノタルコトヲ妨グズ

爐格面積〇・六平方米又ハ傳熱面積十二平方米以下ノ汽罐ニ
在リテハ前項ノ規定ニ拘ラズ給水裝置ヲ一ト爲スコトヲ得

第一項ノ第一ノ給水裝置又ハ前項ノ給水裝置ハ動力ニ依リ運
轉スル給水ポンプ又ハ「インゼクタ」タルコトヲ要ス但シ前項
ニ相當スル汽罐ニシテ制限壓力二・五耗平方耗未滿ノモノニ
付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十六條 汽罐ノ制限壓力ヨリ其ノ二十バーセント以上高キ
水壓力ニテ汽罐ニ給水シ得ル貯水槽又ハ汽罐ノ制限壓力ヨリ
一耗平方耗以上高キ壓力ヲ有スル水道ハ之ヲ給水裝置ト爲ス
コトヲ得

第二十七條 近接セル二以上ノ汽罐ヲ結合シテ使用スル場合ニ
於テハ給水裝置ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ之ヲ一汽罐ト看
做ス

第二十八條 給水裝置ノ給水管ニハ汽罐ト近接セル位置ニ給水
弁及逆止弁ヲ備フベシ

第二十九條 汽罐ニハ水室ノ最低部ニ直結セル排水管ヲ設ケ之
ニ排水コック又ハ排水弁ヲ備フベシ
排水コック又ハ排水弁ノ通水孔ノ斷面積ハ五百平方耗(小型
汽罐又ハ蒸氣ニ在リテハ百二十平方耗)以上タルコトヲ要ス

排水コック又ハ排水弁ハ見易ク且取扱容易ナル位置ニ設クベシ

第三十條

熱ガスニ接觸スル給水管、排水管及水面測定装置ノ通水管ハ耐熱材料ヲ以テ防護スベシ

第三十一條

汽罐ニハ制限壓力ノ一倍半乃至三倍ノ指度ヲ有スル壓力計ヲ備ヘ制限壓力ノ指度ニハ適當ノ標示ヲ爲スベシ

第三十二條

蒸罐ハ第一條乃至第八條、第十六條、第十九條乃至第二十三條、第二十九條及第三十一條ニ依ルノ外左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 罐胴又ハ蓋板ノ材料ニハ鋼板ヲ使用スルコト但シ罐胴ノ内徑四百五十耗以下又ハ之ニ相當スル斷面積ヲ有スル蒸罐ノ蓋板ハ鑄鐵製タルコトヲ妨グズ

二 加硫罐又ハ罐板ガ著シク腐蝕セララルル虞アル作業ニ使用セララルル蒸罐ノ鋼板ノ厚ハ九耗以上タルコト

三 蓋板締付用ボルトノ直徑ハ二十五耗以上タルコト但シ罐胴ノ内徑四百五十耗以下又ハ之ニ相當スル斷面積ヲ有スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

四 鋼製蓋板ノボルト孔ヲ有スル板端ハ堅牢ナル構造ト爲スコト

五 蒸汽送入管中適當ノ箇所ニ減壓弁又ハ減壓装置ヲ備フルコト但シ其ノ必要ナキ場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

六 容易ニ内部ヲ検査シ得ザル蒸罐ニ在リテハ適當ノ箇所ニ検査孔ヲ設クルコト

七 横置型蒸罐ニ在リテハ罐胴ノ縱接手ハ罐胴ノ最低部ヨリ左右約二十度以内ノ範圍ニ之ヲ配置セザルコト

第三十三條 鑄鐵製汽罐ハ制限壓力〇・七疋平方糎以下ニ於テ使用スル組合式タルコトヲ要ス

鑄鐵製温水罐ハ制限壓力三疋平方糎(水頭壓三十米)以下ニ於テ使用スルモノタルコトヲ要ス

第三章 強度計算

第三十四條

汽罐ノ強度計算ニ使用スル抗張力ハ日本標準規格ニ依ル場合ハ其ノ最低値ニ依ルモノトス

前項ニ依ルコトヲ得ザル場合ニ於テハ地方長官ノ査定ニ依ルモノトス

第三十五條 鋼板ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{200fE}{CD} (t-1) \quad \text{又} \quad t = \frac{CDP}{200fE} + 1 \quad \dots (1)$$

P ハ制限壓力疋平方糎

t ハ鋼板ノ厚 耗

f ハ鋼板ノ最小抗張力 疋平方糎

D ハ罐胴ノ最大内徑 耗

E ハ縱接手部分ノ強率ニシテ左ノ算式中ハ小ノモノヲ用フルコト

(イ) 接手部分ニ於ケル鋼板ノ強率 $E_1 = \frac{P-d}{P}$

(ロ) 接手部分ニ於ケル鍍銀ノ強率 $E_2 = \frac{f_s A n_1 + 1.8n_2}{f_{pt}}$

(ハ) 累接又ハ片目板ガ一列鍍銀少ナキ兩目板銜接ニシテ鍍銀ノ數外列ニ於テ半數ナル場合ニ於ケル鍍銀及鋼板ノ聯合強率 $E_3 = \frac{P-2d}{P} + \frac{f_{pt}}{f_s A}$

(ニ) 目板ノ幅等シキ兩目板銜接ニシテ鍍銀ノ數外列ニ於テ半數ナル場合ニ於ケル鍍銀及鋼板ノ聯合強率 $E_4 = \frac{P}{P-2d} + \frac{1.8f_s A}{f_{pt}}$

P ハ外列ニ於ケル鍍銀ノ心距 耗

d ハ鍍銀孔ノ徑 耗

A ハ鍍銀孔ノ面積 平方糎

n₁ ハPナル心距ニ於ケル鍍銀ニシテ一箇所ニ剪斷力ヲ受クルモノノ數

n₂ ハPナル心距ニ於ケル鍍銀ニシテ二箇所ニ剪斷力ヲ受クルモノノ數

f ハ鍍銀ノ抗剪力ニシテ罐用鍍材ノ抗張力ノ八十五パーセント

C ハ定數ニシテ左表ニ依ルコト

C	ハ定數ニシテ左表ニ依ルコト
f	ハ鍍銀ノ抗剪力ニシテ罐用鍍材ノ抗張力ノ八十五パーセント
n ₂	ハPナル心距ニ於ケル鍍銀ニシテ二箇所ニ剪斷力ヲ受クルモノノ數
n ₁	ハPナル心距ニ於ケル鍍銀ニシテ一箇所ニ剪斷力ヲ受クルモノノ數
A	ハ鍍銀孔ノ面積 平方糎
d	ハ鍍銀孔ノ徑 耗
P	ハ外列ニ於ケル鍍銀ノ心距 耗

縱接手ニ於テ累接ナルトキ

縱接手ニ於テ兩目板銜接一列鍍銀又ハ片目板ガ一列鍍銀少ナキ兩目板銜接ナルトキ

縱接手ニ於テ二列鍍銀以上ノ兩目板銜接又ハ繼目無鋼管ナルトキ

前項(ハ)(ニ)以外ノ構造ヲ有スル場合ニ於ケル鍍銀及鋼板ノ聯合強率ハ其ノ構造ニ從ヒ計算スルモノトス

第三十六條 平板ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

依リ算定シタルモノトス

一 控ノ配列規則正シキ場合

二 控ノ配列不規則ナル場合

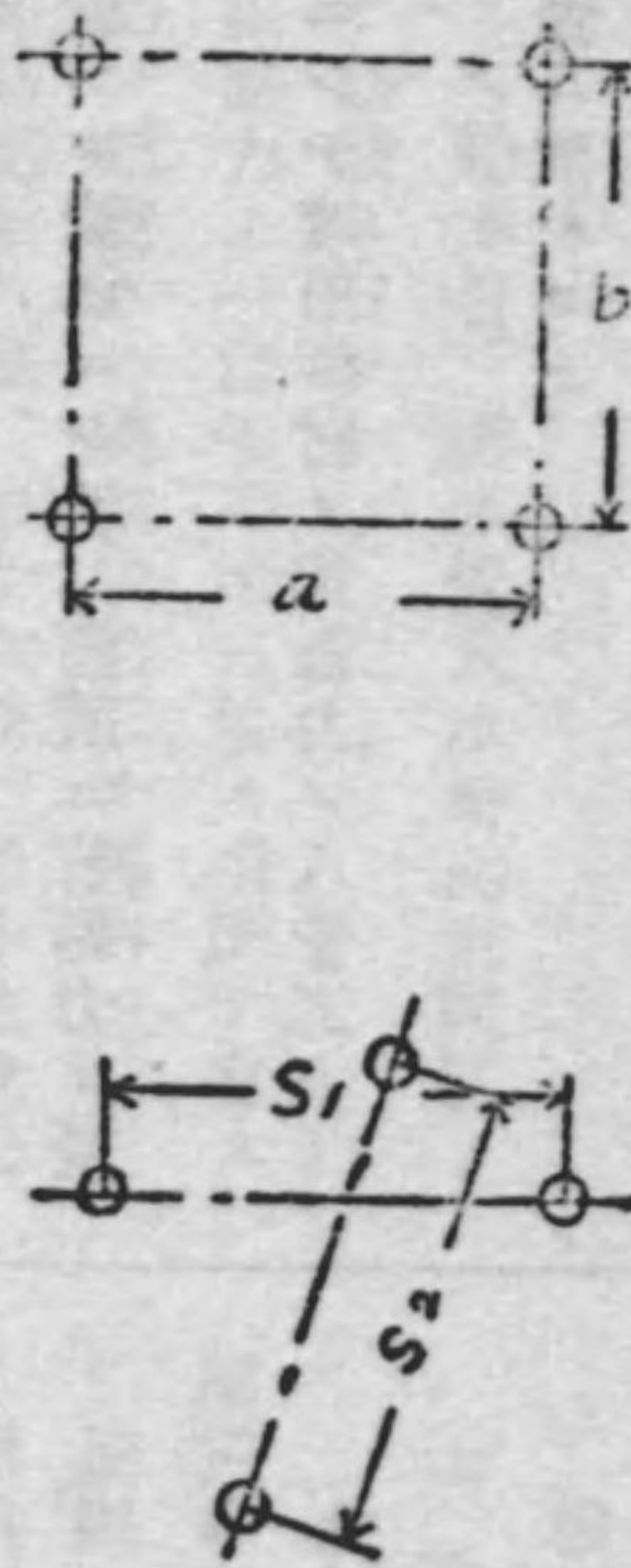
P ハ制限壓力 疋平方糎

t ハ平板ノ厚 耗

a、b、s¹、s² ハ控ノ間隔 耗

$$P = \frac{C_1(a^2 + b^2)}{4t^2} \quad \text{又} \quad t = C \sqrt{(a^2 + b^2)P} \quad \dots (11)$$

$$P = \frac{4t^2}{C_2(a_1 + a_2)^2} \quad \text{又} \quad t = \frac{1}{2}(a_1 + a_2) \sqrt{P} \quad \dots (11)$$



C ハ定数ニシテ板ノ抗張力三十四疋平方耗ノ場合其ノ値ハ左表ニ依ル

金座及トツナ 座ル有	ネ	
	頭部ヲ絞締シタルモノ	頭付又ハナットヲ有スルモノ
熱ガスニ觸レザル場合	熱ガスニ觸ルル場合	熱ガスニ觸レザル場合
	熱ガスニ觸ルル場合	熱ガスニ觸レザル場合
熱ガスニ觸レザル場合	熱ガスニ觸ルル場合	熱ガスニ觸レザル場合
	熱ガスニ觸ルル場合	熱ガスニ觸レザル場合
管	外面座金ノ徑ガ控心距ノ五分ノ二ニシテ其ノ厚ガ板ノ厚ノ三分ノ二ナルトキ	外面座金ノ徑ガ控心距ノ五分ノ三ニシテ其ノ厚ガ板ノ厚ノ六分ノ五ナルトキ
	外面座金ノ徑ガ控心距ノ五分ノ四ニシテ其ノ厚ガ板ノ厚ニ等シキトキ	外面座金ノ徑ガ控心距ノ五分ノ五ニシテ其ノ厚ガ板ノ厚ニ等シキトキ
一面ガ熱ガスニ觸レ地面ガ蒸汽ニ觸ルル板ニシテ熱ガスニ觸ルル面ガ何等防護セラレザル場合ニハ上記ノ定数ヲ十パーセント増加スルコト		
	〇・〇一七五	〇・〇一七五
	〇・〇一五五	〇・〇一五五
	〇・〇一六〇	〇・〇一六〇
	〇・〇一三九	〇・〇一三九
	〇・〇一四四	〇・〇一四四
	〇・〇一三四	〇・〇一三四
	〇・〇一二四	〇・〇一二四
	〇・〇一一三	〇・〇一一三

抗張力ガf疋平方耗ナル板ヲ使用スル場合ニハCノ値ハ前表ニ示スモノニ

三 周圍ニ於テ固定セラレタル矩形平板ノ場合

$$P = 356f \left(\frac{1}{m^2} + \frac{1}{n^2} \right)^{1/2} \quad \text{又ハ}$$

$$t = 0.053m \sqrt{f \left(1 + \left(\frac{m}{n} \right)^2 \right)} \quad \text{.....(四)}$$

P ハ制限壓力 疋平方耗

t ハ平板ノ厚 耗

fz ハ材料ノ許容抗張内力即四分ノ一抗張力 疋平方耗

m ハ矩形ノ長邊 耗

n ハ矩形ノ短邊 耗

四 ガセット控ニテ補強セラレタル平板ノ場合

$$P = 500 \frac{f^2}{d^2} \quad \text{又ハ} \quad t = 0.014d \sqrt{P} \quad \text{.....(五)}$$

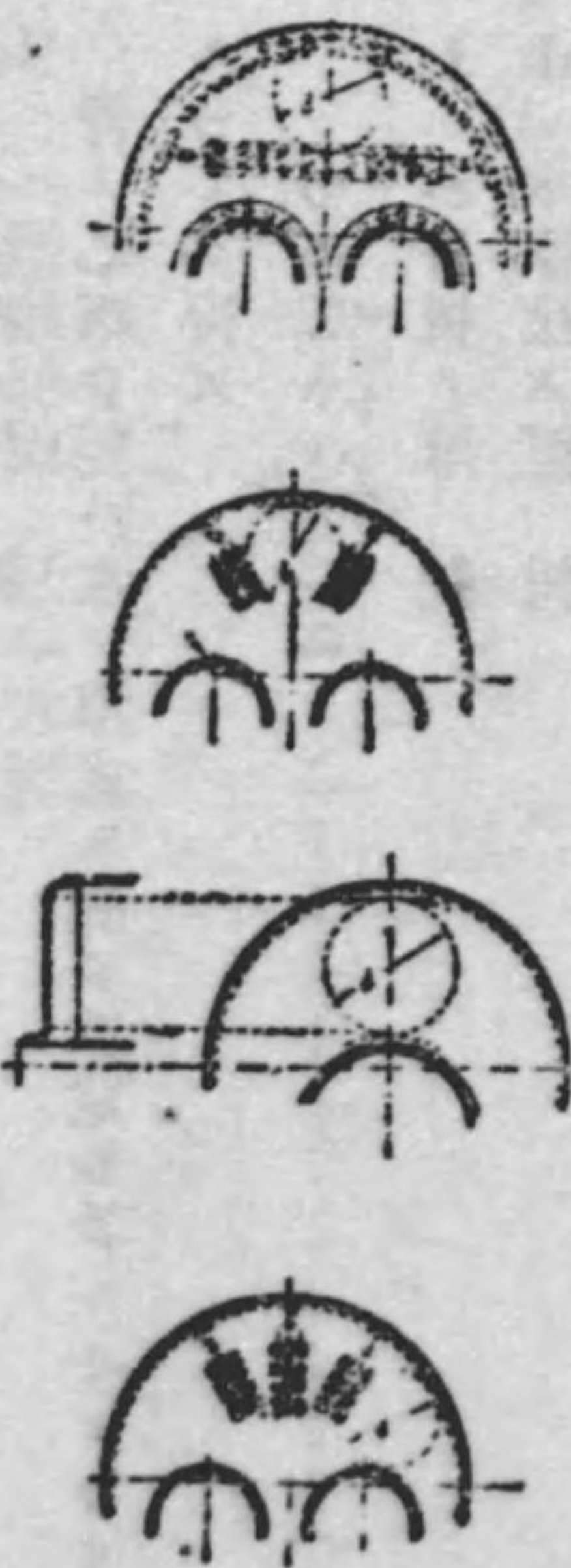
P ハ制限壓力 疋平方耗

t ハ平板ノ厚 耗

d ハ補強ナキ区域内ニ畫キ得ル最大圓ノ徑 耗

定数〇・〇一四及五〇〇〇ハ板ノ抗張力ガ三十四疋平方耗ノ場合ニ對スルモノニシテ板ノ抗張力ガf疋平方耗ナル場合ニハ〇・〇一四ニ對シテハ $\sqrt{\frac{34}{f}}$ ヲ乘ズ、五〇〇〇ニ對シテハ $\frac{f}{34}$ ヲ乘ズルモノトス

汽罐構造規格



五 火焰ニ接觸セザル平板ニ其ノ厚ノ三分ノ二ヨリ薄カラザル副へ板ヲ適當ニ銲着シタルトキハ左ノ算式ニヨリ定メタルtノ値ヲ(一)・(三)・(四)及(五)式ニ適用ス

$$t = \frac{1}{2} \sqrt{P(t_1 + t_2)} \quad \text{.....(六)}$$

t1 ハ平板ノ厚 耗

t2 ハ副へ板ノ厚 耗

第三十七條 鈔ヲ有スル鏡板ニシテ控其ノ他ニ依リ補強セラレザルモノノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

一 平ナル鏡板ノ場合

$$P = \frac{800}{3} f \left\{ \frac{t}{P - f \left(1 + \frac{2t}{P} \right)} \right\} \quad \text{又ハ}$$

$$t = 0.0612 \left\{ d - r \left(1 + \frac{2r}{d} \right) \right\} \sqrt{\frac{P}{t}} \dots (七)$$

- P ハ制限壓力 庇平方種
- t ハ鏡板ノ厚 耗
- f ハ板ノ抗張力 庇平方種
- d ハ鏡板ノ内徑 耗
- r ハ鏡板端彎曲部半径 耗

二 凹面ニ壓力ヲ受クル皿形鏡板ノ場合

$$P = \frac{200ft_s}{R} \times r \quad t = \frac{PR}{200f_s} \dots (八)$$

- P ハ制限壓力 庇平方種
- t ハ板ノ厚 耗
- r ハ板ノ許容抗張内力 庇平方種 ニシテ五庇平方耗以下トス
- R ハ皿形ノ中央部ニ於ケル内面ノ半径耗ニシテ罐胴ノ内徑ヨリ大ナルコトヲ得ズ

皿形鏡板ニ人孔ヲ設ケルトキハ其ノ厚ハ(八)式ニテ算定シタルモノニ二耗ヲ加フベシ

三 凸面ニ壓力ヲ受クル皿形鏡板ノ場合

$$P = \frac{200ft_s}{R} \times r \quad t = \frac{PR}{200f_s} \dots (九)$$

- P ハ制限壓力 庇平方種

- t ハ板ノ厚 耗
- d ハ板ノ許容壓縮内力 庇平方種 ニシテ三・五庇平方耗以下トス

R ハ皿形ノ中央部ニ於ケル外面ノ半径 耗

第三十八條 多管式汽罐ノ管板ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一 管群部以外ノ平板部ノ厚ニ對シテハ第三十六條ノ規定ヲ適用ス

二 管群部ニ於ケル厚ハ控管又ハ他ノ控ヲ有スル場合ハ第三十六條ノ規定ニ依ルベシ

此ノ場合ニ在リテハ煙管端ヲ單ニ擴大シタル構造タルヲ妨グズ但シ管板ノ厚t耗ハ管孔ノ徑dガ三十八耗乃至百耗ノトキ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ
鋼製管板ノ厚 $t = s + \frac{d}{10} \dots (一〇)$

- t ハ管板ノ厚 耗
- d ハ管孔ノ徑 耗

三 管ノ心距P耗ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$P = \left(1 + \frac{4.5}{t} \right) d \dots (一一)$$

- t ハ管板ノ厚 耗
- d ハ管孔ノ徑 耗
- p ハ管ノ心距 耗

四 燃燒室頂部ノ壓力ガ管板ニ加ハル場合其ノ厚ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$t = \frac{PWD}{1900(D-d)} \dots (一一)$$

- P ハ制限壓力 庇平方種
- t ハ管板ノ厚 耗
- D ハ煙管ノ水平心距 耗
- W ハ管板ト燃燒室反對側板トノ間隔 耗
- d ハ煙管ノ内徑 耗

第三十九條

水管式汽罐ニ於テ圓筒ノ一部ヲ成ス管板ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス但シ管ノ取付ニ對スル管板ノ有效厚ハ十耗以上トス

$$P = \frac{100f_s(t-3)(p-d)}{2.1DP} \times r$$

$$t = \frac{2.1DPp}{100f_s(p-d)} + 3 \dots (一二)$$

- P ハ制限壓力 庇平方種
- t ハ管板ノ厚 耗
- f ハ材料ノ抗張力 庇平方種
- p ハ管孔ノ縱心距 耗
- d ハ管孔ノ徑 耗
- D ハ圓筒ノ内徑 耗

汽罐構造規格

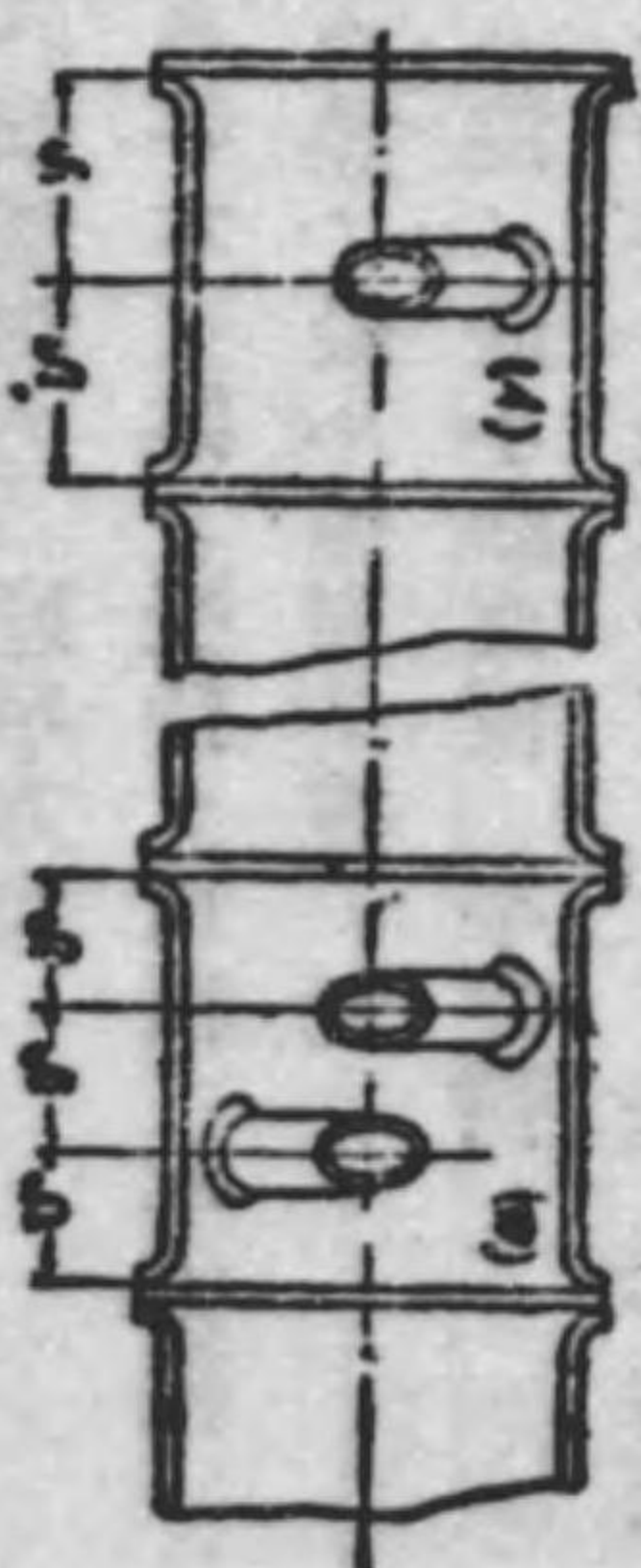
第四十條 爐筒ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{2400(t-2)}{2400(t-2)} \times r$$

$$t = \frac{DP}{2400} \left\{ 1 + \sqrt{1 + \frac{as}{P(s+D)}} \right\} + 2 \dots (一四)$$

- P ハ制限壓力 庇平方種
- t ハ板ノ厚 耗
- D ハ爐筒ノ内徑 耗
- s ハ有效支持部ノ間隔ノ最大距離 耗
- a ハ定數ニシテ左表ニ依ル

縦接手ノ種類	横爐筒	縦爐筒
異接ノ場合	100	70
銜接又ハ鍛接ノ場合	80	50
縦目無又ハ鍛接ニシテ圓形ノ歪ガ徑ノ一パーセント以内ノ場合	75	45



四五

汽機構造規格

(1) $W = a_1 + 0.5a_2$

但し $a_1 \geq a_2$

(2) $W = \begin{cases} a_1 + a_2 & \text{但し } a_1 \geq a_2 \\ a_1 + a_2 & \text{但し } a_1 \geq a_2 \\ a_1 & \text{但し } a_1 \geq a_2 \end{cases}$



第四十一條 波形爐筒ノ強度ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$P = \frac{1200(t-2)}{D} \times \lambda + \frac{PD}{1200} + 2 \dots \dots \dots (15)$

P ハ制限壓力 庇平方糎

t ハ波形爐筒ノ厚糎

D ハ爐筒ノ最小内徑 糎

第四十二條 控ノ強度ニ對スル制限壓力ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

一 棒控並ニネチ控 $P = \frac{75f_z d^2}{a} \times \lambda + q = \sqrt{\frac{aP}{75f_z}} \dots \dots \dots (16)$

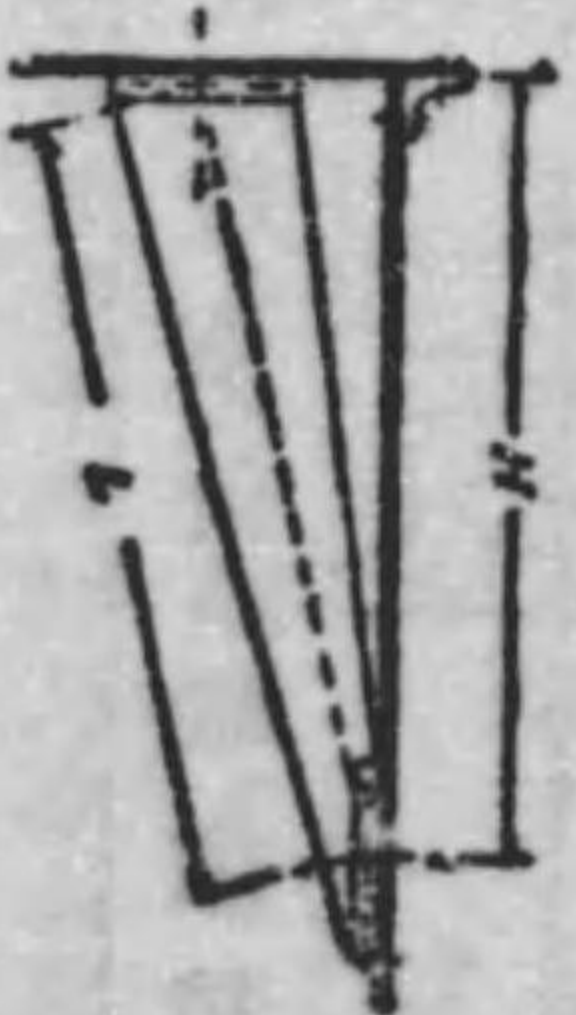
二 控管 $P = \frac{95f_z A}{a} \times \lambda + A = \frac{aP}{95f_z} \dots \dots \dots (17)$

三 斜控 $P = \frac{95f_z AH}{aL} \times \lambda + A = \frac{aPL}{95f_z H} \dots \dots \dots (18)$

四 ガセツト控 $P = \frac{85f_z AH}{aL} \times \lambda + A = \frac{aPL}{85f_z H} \dots \dots \dots (19)$

四六

- P ハ制限壓力 庇平方糎
- a ハ一本ノ控ノ受持ツ面積 平方糎
- d ハ控ノ最小断面ノ徑 糎
- A ハ控ノ最小断面積 平方糎
- L ハ斜控ノ長又ハガセツト控ノ平均長 糎
- H ハ斜控ノ一端又ハガセツト控ノ一端中央部ヨリ平板面ニ垂直ノ長 糎



f_z ハ控ノ材料ノ許容内力庇平方糎ニシテ左表ニ依ル

日本標準規格織用鋼材棒鋼第一種	七・五
日本標準規格織用鋼材棒鋼第二種	八・〇
日本標準規格織用鋼材鋼板第一種	七・五
日本標準規格織用鋼材鋼板第二種	八・〇
控管ノ場合	五・〇

第四十三條 桁控ノ強度ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$P = \frac{Cd^2}{(W-p)DW} \times \lambda + t = \frac{P(W-p)DW}{Cd^2} \dots \dots \dots (10)$

- P ハ制限壓力 庇平方糎
- t ハ桁控板中央部ノ厚糎
- d ハ桁控板中央部ノ高 糎
- W ハ桁控兩端支持部ノ間隔 糎
- p ハ桁控上控ポールトノ心距 糎
- D ハ桁控上控ノ心距 糎
- C ハ定數ニシテ材料ノ抗張力ガ三十九庇平方糎ノ場合左表ニ依ル

控ポールト一本ノ場合	五〇〇
控ポールト二本又ハ三本ノ場合	七五〇
控ポールト四本又ハ五本ノ場合	八二〇
控ポールト六本又ハ七本ノ場合	八八〇
控ポールト八本以上ノ場合	九〇〇

材料ノ抗張力ガf 庇平方糎ノ場合ニハCノ値ハ右ニ示スモノニシテ乘ジタルモノトス

第四十四條 鋼管ノ強度ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

汽機構造規格

$P = \frac{700(t-1.5)}{d} \times \lambda + t = \frac{Pd}{700} + 1.5 \dots \dots \dots (11)$

- P ハ制限壓力 庇平方糎 但しPハ庇平方糎
 - t ハ管ノ厚糎
 - d ハ管ノ外徑 糎
- 本式ニ依リ算定シタル日本標準規格織用鐵目無鋼管ノ最高許容壓力ハ左表ノ如シ

厚糎	2.6	2.9	3.2	3.5	4	4.5	5
外徑糎	20.2	24.5	—	—	—	—	—
3.8	19.3	21.8	—	—	—	—	—
4.0	17.1	19.5	—	—	—	—	—
4.5	15.4	17.8	21.6	—	—	—	—
5.0	—	16.3	19.8	23.3	—	—	—
5.5	—	15.1	18.3	21.5	—	—	—
6.0	—	14.0	17.0	20.0	25.0	—	—
6.5	—	—	15.9	18.7	23.4	—	—
7.0	—	—	14.9	17.5	21.8	—	—
7.5	—	—	14.0	16.5	20.6	24.7	—
8.0	—	—	13.2	15.5	19.4	23.3	—
8.5	—	—	—	14.7	18.4	22.1	—
9.0	—	—	—	14.0	17.5	21.0	24.5
9.5	—	—	—	—	—	—	—
10.0	—	—	—	—	—	—	—

第四十五條 水管ノ強度ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

汽罐構造規格

$$P = \frac{1000 (t-1.5)}{di} \times r \quad t = \frac{P di}{1000} + 1.5 \dots\dots (111)$$

P ハ制限壓力 庇平方糧
t ハ管ノ厚 耗
di ハ管ノ内徑 耗

本式ニ依リ算定シタル日本標準規格用鐵目無鋼管ノ最高許容壓力ハ左表ノ如シ

厚耗	2.0	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5	4.0	4.5
外徑耗	23.8	31.6	31.6	24.5	27.6	21.9	26.7	21.5
25	19.2	26.3	27.6	24.5	21.9	20.3	22.7	21.5
30	19.2	31.6	27.6	24.5	21.9	20.3	22.7	21.5
35	19.2	31.6	27.6	24.5	21.9	20.3	22.7	21.5
40	19.2	31.6	27.6	24.5	21.9	20.3	22.7	21.5
45	19.2	31.6	27.6	24.5	21.9	20.3	22.7	21.5
50	19.2	31.6	27.6	24.5	21.9	20.3	22.7	21.5
55	19.2	31.6	27.6	24.5	21.9	20.3	22.7	21.5
60	19.2	31.6	27.6	24.5	21.9	20.3	22.7	21.5
65	19.2	31.6	27.6	24.5	21.9	20.3	22.7	21.5
70	19.2	31.6	27.6	24.5	21.9	20.3	22.7	21.5
75	19.2	31.6	27.6	24.5	21.9	20.3	22.7	21.5
80	19.2	31.6	27.6	24.5	21.9	20.3	22.7	21.5
85	19.2	31.6	27.6	24.5	21.9	20.3	22.7	21.5
90	19.2	31.6	27.6	24.5	21.9	20.3	22.7	21.5
95	19.2	31.6	27.6	24.5	21.9	20.3	22.7	21.5
100	19.2	31.6	27.6	24.5	21.9	20.3	22.7	21.5

火焰側ニ配置セラレタル二列ノ水管ノ厚ハ第一項ノ算式(11)

(12)ニ依リ算定シタル厚ニ〇・三耗以上ヲ加ヘタルモノト爲スベシ

第四十六條 安全弁ノ總面積ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一 鋼板製汽罐(蒸氣ヲ除ク)

$$F = 15H \sqrt{\frac{1000}{Pr}} \dots\dots (1111)$$

二 鑄鐵製汽罐

$$(イ) 上向通風ノ場合$$

$$F = \frac{15}{3} H \sqrt{\frac{1000}{Pr}} \dots\dots (1114)$$

$$(ロ) 下向通風又ハマガジンフイードノ場合$$

$$F = \frac{10}{3} H \sqrt{\frac{1000}{Pr}} \dots\dots (1115)$$

P ハ制限壓力 庇平方糧

F ハ安全弁ノ總面積 平方糧

H ハ傳熱面積 平方米

r ハ制限壓力ニ對應スル蒸氣一立方米ノ重量 庇

第四十七條 汽罐ガ最高蒸發ヲ繼續スル場合壓力ヲ制限壓力ヨリ十パーセント以上ニ上昇セシメザル構造ヲ有スル安全弁ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セズ

鑄鐵製汽罐ニ在リテハ制限壓力ヨリ〇・三庇平方糧以上壓力ヲ上昇セシメザル安全裝置ハ之ヲ安全弁ト看做ス

汽罐取締令施行細則

昭和十年五月三十日
福岡縣令第二十八號

第一條 汽罐取締令(以下單ニ令ト稱ス)又ハ本則ニ依リ當廳ニ提出スル書類ハ總テ汽罐設置地若ハ汽罐所在地所轄警察署ヲ經由スベシ

第二條 令又ハ本則ニ依リ提出スル書類ハ正副二通提出スベシ但シ令第五條(汽罐設置關係書類)同第七條(汽罐明細書)同第十條(汽罐及焚燒裝置並汽罐据付基礎ノ修繕變更書類)ノ書類ハ正副二通ノ外ニ寫(圖面ヲ除ク)一通ヲ提出スベシ

第三條 禁治産者、準禁治産者又ハ未成年者若ハ妻ノ爲ス願届ニハ後見人、保佐人、法定代理人又ハ夫ノ連署ヲ要ス但シ民法第六條第一項、同第十五條及同第十七條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 令第五條汽罐設置願書中第五號(汽罐室「蒸氣設置室」ノ構造及床面積)第八號(燃料ノ種類及一日ノ最大消費見積量)第十二號(煙突ノ構造、種別及主要寸法)第十三號(工事竣功期日)ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ遲滞ナク變更事由並其ノ年月日ヲ記シ届出ヅベシ

第五條 令第五條ニ依リ許可セラレタル移動式汽罐ヲ使用セムトスルトキハ其ノ都度様式第一號ニ依リ設置地所轄警察署及

汽罐取締令施行細則

使用地所轄警察署ニ届出ヅベシ

第六條 令第七條第三項(汽罐明細書書換申請)ノ場合ニ在リテハ様式第二號ニ依リ申請スベシ

第七條 令第七條第四項(汽罐明細書ノ再交付申請)及同第九條第三項(汽罐検査證ノ再交付申請)ノ場合ニ在リテハ様式第三號ニ依ル申請書ヲ提出スベシ但シ毀損ノ場合ニ在リテハ當該汽罐明細書又ハ汽罐検査證ヲ添付スベシ

第八條 令第九條第二項(汽罐設置者變更ノ場合ニ於ケル汽罐検査證ノ書換)ノ承繼者ハ汽罐検査證ヲ添ヘ様式第四號ニ依リ届出ヅベシ

第九條 令第十條第二號(焚燒裝置)及第三號(汽罐据付基礎)ノ工事竣功シタルトキハ遲滞ナク其旨届出ヅベシ

第十條 令第十三條第一項ニ依ル更新検査願ハ有効期間満了ノ前月五日迄ニ提出スベシ

第十一條 令第十九條第二號(汽罐ノ使用休止)ノ場合ニ在リテハ様式第五號ニ依リ届出ヅベシ

第十二條 令二十一條第二項ニ依リ汽罐管理人ヲ選任セムトスルトキハ管理人ノ履歴書ヲ添付スベシ其ノ之ヲ解任シタルト

汽罐取締令施行細則

キハ遅滞ナク其ノ事由並年月日ヲ記シ届出ヲベシ

第十三條 汽罐取扱主任者ノ指揮監督ノ下ニ汽罐取扱ノ補助作業ニ従事スル者アルトキハ様式第六號ニ依ル補助者名簿ヲ作成シ汽罐設置場ニ備付ベシ

第十四條 令第三十五條第一項(汽罐士試験)同第三十六條第一項(汽罐士免許)ノ願書ニハ出願前一月以内ニ受ケタル醫師ノ身體検査證ヲ添付スベシ

前項及令第三十八條(汽罐士免許證再交付)ノ願書ニ添付スベキ寫眞ニハ其ノ裏面ニ撮影年月日ヲ記入スベシ

第十五條 令第三十九條第三項ニ依リ届出デタル汽罐取扱主任者ヲ解任シタルトキハ遅滞ナク其ノ事由並年月日ヲ記シ届出ヲベシ

第十六條 汽罐設置者ハ様式第七號ニ依ル指示簿ヲ作成シ汽罐設置場毎ニ備付ケ指示注意ヲ受ケタル事項ハ速ニ責任者ニ於テ之ヲ處置シ置クベシ但シ工場法ノ適用ヲ受ケル工場ニシテ指示簿(監督注意簿)ヲ備付ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ指示簿ハ三年間保存スベシ

第十七條 左ニ掲グル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

五〇

一、第四條(汽罐室、燃料、煙突等ニ關スル事項、工事竣功期日ノ變更届)、第五條(移動式汽罐ノ使用届)、第九條(焚燒裝置、汽罐据付基礎修繕變更工事ノ竣功届)、第十一條(汽罐ノ使用休止届)第十二條(汽罐管理人解任届)、第十三條(汽罐取扱者補助者名簿ノ作成備付)、第十五條(汽罐取扱主任者解任届)、第十六條(指示簿ノ作製備付保存)ノ規定ニ違反シタル者

第十八條 令第四十八條ノ規定ハ本則ノ處罰ニ之ヲ準用ス

附 則

第十九條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 明治三十一年一月福岡縣令第四號汽機汽罐取締規則ハ之ヲ廢止ス

第二十一條 令第五十三條第二項(令施行前汽罐取扱ニ従事スル者ニ免許證交付)ノ規定ニ依リ汽罐士免許ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ様式第八號ニ依ル申請書ニ學歷及令施行前ニ於テ汽罐取扱ニ従事シタル事蹟ヲ詳記セル履歷書、醫師ノ身體検査證及寫眞二葉ヲ添へ昭和十一年四月三十日迄ニ申請スベシ

様式第一號

(美濃型半折大)

移動式汽罐使用届	
設置出願地	
設置許可年月日	
検査證番號	
汽罐ノ種類	
使用目的	
使用場所	
使用期間	
有効期間	
備考	

右ノ通使用致度候間此段及届出候也

年 月 日

住 所

設置者 氏 名 ●

警察署長宛

汽罐取締令施行規則

汽罐取締令施行細則

様式第二號

(美濃型半折大)

汽罐明細書書換申請書	
書換ヲ要スベキ事項	
異動事由	
異動年月日	
備考	
昭和 年 月 日	日交付相成候汽罐明細書右ノ通異動致候間御書換相成度汽罐明細書相添ヘ此段及申請候也
年 月 日	
住所	
製作者又ハ設置者 氏	
名 ㊦	
知事宛	

注意

一、汽罐明細書ノ書換ハ罐體検査後ヨリ設置迄ノ間ニ於テ罐體ヲ向上セシムル爲修繕又ハ加工ヲ爲シタル場合ニ限ル

様式第三號

(美濃型半折大)

汽罐明細書再交付申請書	
申請事由	
昭和 年 月 日	日交付相成候汽罐明細書検査証滅失(毀損)致候間再交付相成度別紙理由書相添ヘ此段及申請候也
年 月 日	
住所	
製作者又ハ設置者 氏	
名 ㊦	
知事宛	

注意

一、汽罐明細書ノ再交付申請ハ罐體検査後設置迄ノ間ニ於テ申請事由發生ノ場合ニ限ル
二、再交付申請ノ理由書ヲ添付スルコト

汽罐取締令施行細則

汽罐取締令施行細則

様式第四號

(美濃型半折大)

汽罐承継届	
承継者ノ住所氏名 人ニ在リテハ事務所 所在地、名稱、代表 者ノ氏名	
事業ノ名稱、種類	
前権利者ノ住所氏名 法人ニ在リテハ事務 所在地、名稱、代 表者ノ氏名	
設置場ノ地名番地	
承継事由	
承継年月日	
備考	

右ノ通承継致候間汽罐検査證書換相成度汽罐検査證相添へ此段及届出候也

年 月 日

知事宛

承継者 氏 氏
前権利者 氏 氏

名 名
● ●

注意

様式第五號

(美濃型半折大)

一、連署シ能ハザルトキハ備考欄ニ其ノ事由ヲ詳記スルコト

汽罐使用休止届	
事業ノ名稱、種類	
設置地ノ地名、番地	
設置許可年月日	
使用ヲ休止スベキ汽 罐ノ検査證番號	
使用ヲ休止スベキ汽 罐ノ種類、常用汽壓	
使用休止期間	
使用休止事由	
有効期間	
備考	

右ノ通使用休止致候間此段及届出候也

年 月 日

住所

汽罐取締令施行細則

汽罐取締令施行細則

知事宛

設置者氏

名印

様式第六號

汽罐取扱補助者名簿

(美濃型半折大)

備考	解雇年月日	雇入年月日	履歴	住所	生年月日	氏名	本籍	
							町	番

様式第七號

(美濃型半折大)

月日	指示注意事項	指示注意者ノ印	月日	處置要領	處置者ノ印

様式第八號

(美濃型半折大)

汽罐士免許申請書

現在取扱汽罐ノ種類	制限壓力	傳熱面積	生年月日	氏名	住所	本籍	汽罐士免許申請書	
							町	番

汽罐取締令施行細則

備考

右汽船士免許相成度關係書類相添へ此段及申請候也

年 月 日

住所

氏

名

知事宛

注意

一、本申請書ニ添付スベキ寫眞ハ申請前六月以内ニ撮影シタル名刺形半身脱帽ノモノニ葉トス

工業労働者最低年齢法

大正十二年三月二十九日
法律第三十四號

第一條 本法ニ於テ工業ト稱スルハ左ニ掲グル事業ヲ謂フ

一 鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業

二 物品ノ製造、改造、淨洗、修理、裝飾、仕上、販賣ノ爲ニスル仕立、破壊若ハ解体ヲ爲シ又ハ材料ノ變造ヲ爲ス事業（造船業及電氣又ハ各種動力ノ發生、變更及傳導ヲ爲ス事業ヲ含ム）

三 土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、解体又ハ其ノ準備若ハ基礎工事

四 道路、鐵道、軌道又ハ平水航路ニ於ケル旅客又ハ貨物ノ運送但シ主トシテ人力ニ依ル運送ヲ除ク

五 船渠、岸壁、波止場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱

第二條 十四歳未滿ノ者ハ工業ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ十二歳以上ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル事業又ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ工業ニ關スル學校ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セズ

工業労働者最低年齢法

第三條 十六歳未滿ノ者ヲ工業ニ使用スル場合ニ於テハ使用者

ハ其ノ住所、氏名、生年月日及學歷ヲ記載シタル名簿ヲ調整シ作業場ニ備附クルコトヲ要ス但シ工場法施行令又ハ鑛業法ニ依ル名簿ノ備附アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スベシ

第五條 工業ニ就業シ若ハ就業セムトスル者又ハ使用者ハ就業シ又ハ就業セムトスル者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニシ證明ヲ求ムルコトヲ得

第六條 第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 使用者營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ使用者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

工業労働者最低年齢法施行規則

第九條 使用者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ従業者ニシテ本法ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十條 本法ニ於テ使用者ニ關スル規定ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ工業主ニ、工場管理人アル場合ニ於テハ工場管理人ニ、鑛業ニ在リテハ鑛業權者ニ、鑛業代理人アル場合ニ於テハ鑛業代理人ニ之ヲ適用ス

工業労働者最低年齢法施行規則

大正十五年六月七日
内務省令第十四號

第一條 工業労働者最低年齢法第二條第二項ニ規定スル行政官廳ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）鑛業及砂鑛業ニ付テハ鑛山監督局長トス

第二條 工業労働者最低年齢法第三條ノ規定ニ依ル名簿中學歴ニ付テハ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月ヲ、尋常小學校ノ教科ヲ修了セザル者ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三條 工業労働者最低年齢法第四條ノ規定ニ依ル證票ハ別記様式ニ依ル

六〇

第十一條 本法ハ罰則ヲ除クノ外國、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキ者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
（大正十五年六月勅令第五百五十二號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）
本法施行ノ際十二歳以上ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

附則

本令ハ工業労働者最低年齢法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
工業労働者最低年齢法施行ノ際同法附則第二項ノ規定ニ依リ十二歳以上十四歳未満ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了セザル者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及雇入年月日ヲ本令施行ノ日ヨリ二月内ニ地方長官又ハ鑛山監督局長ニ届出ヅベシ
前項ノ届出ヲ怠リタル者又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

労働者募集取締令

大正十三年十二月二十九日
内務省令第三十六號

第一條 本令ニ於テ募集主トハ募集シタル労働者ノ雇主タルベキ者ヲ謂ヒ募集従事者トハ募集主ノ委託ヲ受ケ又ハ自ら雇傭セムガ爲労働者ノ募集ニ従事スル者ヲ謂フ

第二條 本令ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外職工、續夫又ハ土工夫其ノ他ノ人夫ノ募集ニ之ヲ適用ス

一 應募者就業ノ爲住居ヲ變更スル必要ナキトキ

二 單ニ廣告ニ依リ募集シ就業場ニ於テノ募集ノ取扱ヲ爲ストキ

三 移民保護法ニ依ル募集ヲ爲ストキ

第三條 募集主ハ募集開始前左記事項ヲ記載シタル就業案内又ハ雇傭契約書案ヲ應募者ノ就業場所在地所轄地方長官ニ届出ヅベシ

一 募集主ノ住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ氏名

二 應募者ノ就業場ノ名稱及所在地

三 短期ノ事業ニ在リテハ其ノ事業ノ開始及終了時期

四 應募者ノ就業スベキ事業ノ種類

五 就業時間、休憩時間、休日及夜間作業ニ關スル事項

労働者募集取締令

六一

六 賃金ニ關スル事項

七 宿舍、食事ノ費用、往復旅費等ノ負擔ニ關スル事項

八 制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

九 雇傭期間及解雇ニ關スル事項

十 負傷、疾病又ハ死亡ノ場合ニ於ケル扶助救済ニ關スル事項

募集主前項ノ就業案内又ハ雇傭契約書案ノ外募集ニ關シ配布スベキ文書アルトキハ前項ノ規定ニ準ジ之ヲ届出ヅベシ
前二項ノ規定ニ依リ届出デタル就業案内雇傭契約書案其ノ他ノ文書ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク之ヲ届出ヅベシ

第四條 労働者ノ募集ニ従事セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ其ノ寫眞二葉ヲ添ヘ募集主ノ連署ヲ以テ其ノ住所所在地所轄地方長官ノ許可ヲ受クベシ

一 募集主ノ住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ氏名

二 募集従事者ノ本籍、住所、氏名、職業及生年月日

三 募集従事者ノ雇歴

四 募集従事期間

五 募集従事区域

六 應募者ノ就業場ノ名稱、所在地及事業ノ種類

募集従事期間ハ三年以内トス
第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル者更ニ他ノ募集主ノ爲ニ募集ニ従事セムトスルトキハ從來ノ募集主ノ承諾書ヲ添ヘ第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ申請スベシ

第五條 地方長官前條ノ規定ニ依リ許可ヲ爲シタルトキハ様式第一號ニ依ル募集従事者證ヲ交付スベシ

募集従事者證ヲ減失、紛失又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ申請スベシ

募集従事者證ノ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ募集従事者ハ遅滞ナク其ノ書換ヲ申請スベシ
前二項ノ申請ハ募集従事者ノ寫眞二葉ヲ添ヘ許可ヲ爲シタル地方長官ニ之ヲ爲スベシ

第六條 募集従事者ハ應募者若ハ應募セムトスル者又ハ本人ヲ保護スル者ノ請求アリタルトキハ其ノ募集従事者證ヲ提示スベシ

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ募集主ハ第四條ノ許可ヲ爲シタル地方長官ニ遅滞ナク之ヲ届出スベシ
一 募集主事業ヲ廢止シタルトキ
二 募集主募集従事者ニ對シ募集ノ委託ヲ解キタルトキ

内又ハ履修契約書案ヲ交付シ其ノ主旨ヲ懸示スベシ
第十一條 募集従業者ハ様式第二號ニ依リ應募者名簿ヲ調製シ、募集従事中之ヲ携帶シ又ハ第九條ノ規定ニ依リ届出デタル居所若ハ事務所ニ備付クベシ
第十二條 募集従事者ハ左ニ掲グル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ
一 募集従事者證ヲ他人ニ讓渡若ハ貸與シ又ハ募集ヲ他人ニ委託スルコト
二 募集ニ關シ事實ヲ隱蔽シ誇大虛偽ノ言辭ヲ弄シ其ノ他不正ノ手段ヲ用キルコト
三 募集ヲ強要スルコト
四 應募シ又ハ應募セムトスル女子ニ對シ風俗ヲ紊ル虞アル行爲ヲ爲スコト
五 應募者又ハ應募セムトスル者ニ對シ遊興ヲ勸誘シ又ハ其ノ案内ヲ爲スコト
六 濫ニ應募者ノ外出、通信若ハ面接ヲ妨ゲ其ノ他應募者ノ自由ヲ拘束シ又ハ苛酷ナル取扱ヲ爲スコト
七 濫ニ應募者ニ對シ其ノ所持品ノ保管ヲ求メ又ハ保管シタル所持品ノ返還ヲ拒ムコト
八 應募者ヲ募集従事者證記載ノ募集主以外ノ者ニ周旋スルコト
九 應募者又ハ應募者ヲ保護スル者ヨリ手数料、報酬等何等

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ募集従事者ハ許可ヲ爲シタル地方長官ニ遅滞ナク募集従事者證ヲ返納スベシ

一 募集ニ従事スルコトヲ廢シタルトキ
二 募集従事期間満了シタルトキ
三 募集従事者ノ許可ヲ取消サレタルトキ
四 前條各號ノ一ニ該當スルトキ

募集従事者死亡シタルトキハ戶籍法第十七條ノ届出義務者募集従事者證ヲ添付シ許可ヲ爲シタル地方長官ニ遅滞ナク其ノ旨届出スベシ
第九條 募集従事者募集ニ着手セムトスルトキハ様式第三條ノ就業案内、履修契約書案其ノ他募集ニ關シ配布スベキ文書ヲ添付シ左記事項ヲ募集地所轄警察官署ニ届出スベシ
一 募集従事者ノ住所、氏名
二 募集従事者ノ居所及事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ所在地
三 當該警察官署管内ニ於ケル募集従事期間
四 當該警察官署管内ニ於テ募集セムトスル労働者ノ男女別豫定人員
五 應募者ノ集合所ヲ定メタルトキハ其ノ所在地
前項各號ノ事項又ハ前項ノ規定ニ依リ添付スベキ文書ニ變更アリタルトキハ遅滞ナク之ヲ届出スベシ

第十條 募集従事者ハ應募セムトスル者ニ對シ第三條ノ就業案内名義ヲ問ハズ金錢其ノ他ノ財物ヲ受クルコト
十 當該官吏又ハ應募者ヲ保護スル者ニ對シ應募者ノ所在ヲ隱蔽シ又ハ之ヲ偽ルコト
第十三條 募集従事者ハ未成年者、禁治産者、準禁治産者又ハ妻ニ付テハ其ノ法定代理人、後見人、保佐人又ハ夫ノ承諾アルニ非ザレバ之ヲ募集スルコトヲ得ズ但シ已ムヲ得ザル事由ニ因リ承諾ヲ得ルコト能ハザル場合ニ於テ本人ヲ保護スル者ノ承諾アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第十四條 募集従事者應募者ヲ引卒シテ出發セムトスルトキハ其ノ出發三日前迄ニ左記事項ヲ記載シ募集地所轄警察官署ニ届出スベシ
一 應募者ノ住所、氏名及生年月日
二 出發ヨリ就業場到着迄ノ旅行豫定
前項各號ニ掲グル事項ニ變更アリタルトキハ遅滞ナク之ヲ届出スベシ
第十五條 募集従事者應募者ト共ニ汽車、汽船其ノ他ノ交通機關以外ノ場所ニ於テ宿泊セムトスルトキハ豫メ宿泊所所在地所轄警察官署ニ左記事項ヲ届出スベシ
一 宿泊所
二 應募者ノ男女別員數
三 宿泊所到着及出發ノ日時

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ應募者ノ請求アリタルトキハ應募者就業場ニ到着前ニ於テハ募集従事者、到着後ニ於テハ募集主應募者ノ歸郷ノ爲必要ナル措置ヲ爲スベシ

一 就業案内又ハ雇傭契約書案ニ記載シタル事項ガ事實ト相常相違シタルトキ

二 募集主、募集従事者又ハ就業場ノ監督者應募者ヲ虐待シ又ハ凌辱シタルトキ

三 考試、身體検査其ノ他募集主ノ都合ニ依リ應募者ヲ採用セザルトキ

四 其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ歸郷ヲ必要トスルニ至リタルトキ

第十七條 當該官吏ハ募集従事者ニ對シ募集従事者證、應募者名簿其ノ他募集ニ關スル書類ノ提示ヲ命ズルコトヲ得

第十八條 許可ヲ爲シタル地方長官募集従事者ヲ不適當ナリト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消フコトヲ得

第十九條 募集主ハ労働者ノ募集ニ付様式第三號ノ定ムル所ニ依リ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分ヲ取纏メ翌年二月十五日迄ニ就業場所所在地所轄地方長官ニ之ヲ届出ヅベシ

其ノ募集ノ停止ヲ命ズルコトヲ得

第二十條 募集主又ハ募集従事者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ依リ届出デタル就業案内、雇傭契約書案其ノ他募集ニ關シ配布スベキ文書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキ

二 第三條ノ規定ニ依ル届出ナキ就業案内、雇傭契約書案其ノ他ノ文書ヲ募集ニ關シ配布シタルトキ

三 第三條、第五條第三項、第七條、第九條乃至第十六條又ハ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキ

四 應募者名簿ノ記載ヲ怠リ又ハ之ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキ

五 第十七條ノ規定ニ依ル命令ニ従ハザルトキ

六 第十八條第二項ノ規定ニ依ル募集ノ停止中募集ニ従事シタルトキ

第二十一條 第四條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズ又ハ募集従事者證記載事項ノ範圍外ニ互リ労働者ノ募集ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十二條 工場法第十八條ニ規定スル工場管理人又ハ職業法施行細則第五十四條ニ規定スル職業代理人ハ本令ノ適用ニ付募集主ト看做ス但シ第三條第一項第一號、第四條第一項第一號及様式第一號ノ記載ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條

募集主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テハ本令ノ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法人ノ代表者ニ之ヲ適用ス

第二十四條

募集主ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ従業者ニシテ募集主ニ關スル本令ノ規定ニ違背スル行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

附 則

第二十五條

本令ハ大正十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六條

本令中地方長官トアルハ東京府ニ在リテハ警視廳監トス

第三條及第十九條ノ就業場所所在地所轄地方長官トアルハ鑛業及砂鑛業ニ在リテハ就業場所所在地所轄鑛山監督局長トス

第二十七條

應募者ノ就業場所所在地又ハ募集従事者ノ住所ガ本令施行區域外ニ在ル場合ニ於テハ第三條若ハ第十九條ノ規定ニ依ル届出又ハ第四條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ主タル募集地所轄地方長官ニ之ヲ爲スベシ

第二十八條

本令施行ノ際労働者募集取締ニ關スル廳府縣ノ命令ニ依リ募集ニ従事スルコトノ許可ヲ受ケタル者ハ本令施行後二月間ハ許可ヲ爲シタル地方長官管轄區域内ニ限り本令第四條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

労働者募集取締令

労働者募集取締令

六 旅費額ニハ應募者ノ入場ニ要シタル費用ニシテ就業後之ヲ返還スルコトヲ要スベキモノ（條件附ニテ返還ヲ要セザルモ）
（様式第三號）

六八
ノヲ包含ス）ヲ汽車、汽船、車馬賃、宿泊料及辨當代其ノ他ノ別ニ依リ記載スベシ

労働者募集年報

自大正 年 月 至大正 年 月

募集従事者員數	募集地別募集労働者數						計	募集主住所氏名
	計	其 ノ 他	、 、 、	、 、 、	京 都 府	東 京 府		
					北 海 道	東 京 府		

労働者募集年報記載心得
一 募集地別募集労働者數額ニハ本令ニ依リ募集シ雇入レタル労働者ノ總數ヲ募集地別男女別ニ記載スベシ
其ノ他ノ國ニハ朝鮮、臺灣、樺太等ニ於テ募集シタル労働者

ヲ記載スベシ
二 募集従事者員數額ニハ十二月三十一日現在ニ於テ本令ニ依リ許可ヲ受ケ募集従事者タル者ノ員數ヲ男女別ニ記載スベシ

労働者募集取締令施行細則

大正十四年四月十日
福岡縣令第二十四號

第一條 労働者募集取締令及本則ニ依リ當廳ニ對スル願届等ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スベシ
第二條 労働者募集取締令第三條ノ規定ニ依リ届出ヅベキ書類ハ正副二通ヲ提出スベシ
第三條 労働者募集取締令第四條及第五條ノ規定ニ依ル申請書ニ添付スベキ寫眞ハ手札形トシ出願前六月以内ニ撮影シタル脱帽、半身像ニシテ裏面ニ撮影年月日ヲ記載スベシ
第四條 労働者募集取締令第九條ノ規定ニ依ル届書ニ添付スベキ就業案内、雇傭契約書案其ノ他募集ニ關シ配布スベキ文書ハ労働者募集取締令第三條ニ依リ届出ヅベキ官廳ノ檢印ヲ受ケタルモノ其ノ他當該官廳ニ届出デタル文書ト同一ナルコトヲ確認シ得ルモノナルコトヲ要ス
第五條 労働者募集取締令第三條ニ依リ當廳ニ届出デタル募集主、募集ニ關シ必要アルトキハ其ノ届出デタルモノト同一ノ就業案内、雇傭契約書案其ノ他募集ニ關シ配布スベキ文書ニ當廳ノ檢印ヲ求ムルコトヲ得
第六條 労働者募集取締令第五條ノ規定ニ依ル募集従事者證ニハ様式第一號ニ掲グル事項ノ外募集従事者ノ本籍、住所及職

業ヲ記載スルモノトス
第七條 労働者募集取締令第三條ノ規定ニ依リ當廳ニ届出デタル募集主募集ヲ廢止シタルトキハ遲滞ナク當廳ニ之ヲ届出ヅベシ
第八條 募集従事者ニ對シ労働者募集取締令第十八條第二項ニ依ル募集停止ノ處分ヲ爲シタルトキハ必要ノ期間募集従事者證ヲ領置シ處分ノ要旨ヲ其ノ裏面ニ記載シ捺印スルモノトス
附 則
第九條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正七年福岡縣令第五號職工、坑夫其ノ他勞役者募集取締規則ハ之ヲ廢止ス

土石採取場安全及衛生規則

昭和九年五月三日
内務省令第十一號

第一條 本令ハ勞働者災害扶助法第一條第一項第一號ノ事業ニ之ヲ適用ス但シ砂礫法ノ適用ヲ受クル事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 事業主ハ事業場ニ於ケル危害豫防及衛生ニ關シ一切ノ權限ヲ有スル安全衛生管理人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ安全衛生管理人ヲ選任シタルトキハ事業主ハ遲滞ナク地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ニ届出ヅベシ

地方長官ハ必要アリト認ムルトキハ安全衛生管理人ノ改任ヲ命ズルコトヲ得

安全衛生管理人ハ本令ノ適用ニ付テハ事業主ニ代ルモノトス

第三條 事業主ハ勞働者ノ爲安全ナル通路ヲ設クベシ

第四條 壘坑内ノ架設通路ハ堅牢ナル構造ト爲シ且左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一、架設通路ノ外側ニハ高七十五釐以上ノ堅牢ナル扶欄ヲ設クルコト
二、架設通路ノ長十五米以上ナルトキ八十米以内毎ニ踏欄ヲ設クルコト

土石採取場安全及衛生規則

第五條 坑内梯子道ハ堅牢ナル構造ト爲シ且左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一、梯子ハ坑壁トノ間ニ適當ナル間隔ヲ保有セシメ傾斜ハ八十度以内ト爲スコト

二、梯子道ノ長十五米以上ナルトキ八十米以内毎ニ踏欄ヲ設クルコト

三、梯子ノ上端ヲ床ヨリ六十釐以上突出セシムルコト

第六條 坑内ニ於ケル通路又ハ梯子道ガ捲揚裝置ニ接近シ危害ヲ生ズルノ虞アル場合ニ於テハ事業主ハ板仕切其ノ他ノ隔壁ヲ設クベシ

第七條 事業主ハ露天採取場ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

一、崩壊ノ虞アル表土ハ先ヅ之ヲ除去シタル後採掘スルコト

二、浮石ヲ除去スルコト

三、浮石除去ノ作業ニ必要ナル傾斜ヲ保持スルコト
四、砂礫其ノ他崩壊シ易キモノヲ採掘スル場合ニ於テハ危害豫防ノ爲適當ナル段階ヲ附スルカ又ハ安全ナル傾斜ヲ保持スルコト

土石採取場安全及衛生規則

五、落石ヲ防止スル爲採掘箇所ノ下部ニ構築其ノ他ノ適當ナル設備ヲ設クルコト但シ採掘箇所ト其ノ作業箇所又ハ通路トノ間ニ安全ナル間隔ヲ有シ落石ニ因ル危害ヲ生ズルノ虞ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ事業主適當ナル危険豫防施設ヲ爲シ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項第三號ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第八條 事業主ハ落石ノ虞アル場合ニ於テハ支柱其ノ他ノ落石防止施設ヲ爲スベシ

採掘又ハ掘進中特ニ落石ノ虞アル場合ニ於テハ事業主ハ支柱其ノ他坑内支持ニ必要ナル材料ヲ落石防止作業上便宜ノ場所ニ敷メ配置スベシ

第九條 事業主ハ運搬軌道ニ依リ車輛ヲ運轉スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

一、脱線又ハ覆覆ノ虞ナキヤウトシ軌道ヲ完全ニ維持スルコト

二、車輛ニハ適當ナル制動裝置ヲ備フルコト但シ専ラ水平軌道ヲ緩行スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

三、駐車セル車輛ガ逸走ノ虞アル場合ニハ適當ナル逸走防止裝置ヲ設クルコト

四、墜落ノ虞アル軌道ノ末端ニハ適當ナル車輛墜落防止裝置ヲ設クルコト

ペン

一、「ダイナマイト」其ノ他ノ「ニトログリセリン」爆發藥ニシテ凍結シタルモノハ火氣ニ接近セシメ又ハ直接蒸氣ニ接觸セシムル等危険ナル方法ヲ以テ融解セザルコト

二、火藥又ハ爆發藥ヲ裝填スルニハ鐵製具ヲ使用セザルコト

三、點火ハ豫メ附近ノ者ヲ警告シ、完全ニ避難セシメタル後ニ非ザレバ之ヲ爲サザルコト

四、點火後爆發セザルトキハ電氣點火法ニ依リタル場合ハ發破母線ヲ點火器ヨリ取離シタル後、其ノ他ノ方法ニ依リタル場合ハ少クトモ十五分ヲ經過シタル後ニ非ザレバ發破箇所ニ近寄り又ハ附近ノ者ヲ近寄ラシメザルコト

五、裝藥ガ不發ノ場合ニ於テハ當該係員ノ指揮ヲ受ケ不意ニ爆發ノ虞ナカラシムル爲注水其ノ他適當ナル處置ヲ爲スコト

第十三條 事業主ハ發破ノ際労働者ガ危害ノ虞ナキ遠距離ニ避難シ得ル場合ヲ除クノ外面及上部ヲ堅固ニ防護セル避難所ヲ設クベシ

第十四條 堅坑ノ坑口其ノ他墜落ノ虞アル箇所ニハ蓋、構築其ノ他ノ墜落防止施設ヲ爲スベシ

第十五條 事業主ハ堅坑内、四十度以上ノ斜面又ハ架空索道ノ支柱上其ノ他墜落ノ虞アル場所ニ於テ労働者ヲ作業セシムル

土石採取場安全及衛生規則

第十條 事業主ハ捲揚裝置ニ付左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

一、安全荷重ヲ標記シ置クコト

二、前號ノ安全荷重ハ捲揚用又ハ索引用鋼索ノ切斷荷重ノ六分ノ一以下トスルコト但シ人ノ乗用ニ供スベキ場合ニ在リテハ十分ノ一以下トスルコト

三、鋼索ハ三十廻ノ長ノ間ニ於テ全鋼線數ノ一割以上ノ鋼線ガ切斷セルモノヲ使用セザルコト

四、適當ナル制動裝置ヲ設クルコト

五、架臺其ノ他ノ構造物ハ倒壞ノ虞ナキヤウ安全ニ之ヲ支持スルコト

六、捲揚裝置ノ運轉手ヲ指定シ其ノ氏名ヲ運轉箇所ニ標示シ置クコト事業主ハ捲揚裝置ニ依ル運搬作業ニ從事スル者ヲシテ安全荷重ヲ超エテ負荷セシムルコトヲ得ズ但シ已ムヲ得ザル場合ニ於テ當該捲揚裝置ニ關シ十分ナル知識ヲ有スル係員ノ監視ノ下ニ其ノ支障ナシト認メタル限度ニ於テ安全荷重ヲ超過スルコトヲ妨グズ

捲揚裝置ニ依リ運搬作業ニ從事スル者ハ前項但書ノ場合ヲ除クノ外安全荷重ヲ超エテ負荷スルコトヲ得ズ

第十一條 捲揚裝置ヲ設ケタル堅坑又ハ坑道ニハ人聲ヲ以テ合圖シ得ル場合ヲ除クノ外適當ナル信號裝置ヲ設クベシ

第十二條 火藥又ハ爆發藥ヲ取扱フ者ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守ス

場合ニ於テハ

第十六條 事業主ハ原動機、捲揚裝置其ノ他ノ機械設備ノ危害ヲ生ズルノ虞アル部分ニハ適當ナル柵圍又ハ安全裝置ヲ設クベシ但シ作業上已ムヲ得ザル場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 事業主ハ著シク粉塵ヲ發散スル作業ヲ爲サシムル場合ニ於テハ注水其ノ他ノ粉塵防止施設ヲ爲スベシ但シ已ムヲ得ザル場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

事業主ハ前項但書ノ場合又ハ石片飛來ノ虞アル作業ヲ爲サシムル場合ニ於テハ之ニ從事スル労働者ニ使用セシムル爲適當ナル保護具ヲ備フベシ労働者ハ作業中前項ノ保護具ヲ使用スルコトヲ要ス

第十八條 事業主ハ事業上ノ安全ニ關スル事項ヲ掌ラシムル爲安全係員又ハ安全委員ヲ選任シ毎日事業場ニ於ケル採掘箇所通路、軌道其ノ他危害ヲ生ズルノ虞アル場所ヲ巡視シ浮石其ノ他危険ノ有無ヲ検査セシメ應急處置又ハ適當ナル危険豫防ノ處置ヲ爲サシムベシ

第十九條 地方長官ハ前各條ニ定ムルモノノ外労働者ノ安全及衛生ノ爲必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十條 事業主本令又ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十一條 事業主未成年者若ハ禁治産者ナルトキ又ハ法人

七三

土石採取場安全及衛生規則

ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第二十二條 事業主ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十三條 本令中安全衛生管理ニ關スル規定及事業主ニ適用スベキ罰則ハ國、道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニ之ヲ適用セズ

第二十四條 第十條第三項及第十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
前項ノ規定ニ依リ勞働者ヲ罰スベキ場合ニ於テハ其ノ監督者モ亦百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ監督上相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

本令ハ昭和九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七條第一號及第三號ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ存スル事業場ニ付地方長官必要アリト認メタルトキハ本令施行後一年以内其ノ適用ヲ猶豫スルコトヲ得

重貨物ノ重量標示ニ關スル件

昭和五年五月六日
內務省令第一六號

第一條 一貨物ニシテ重量千疋以上ノモノ（包裝セラレザル木材、石材、鐵材其ノ他之ニ類スルモノヲ除ク）ヲ發送セントスル者ハ發送前見易ク且容易ニ消費セザル方法ヲ以テ其ノ重量ヲ表記スベシ但シ當該貨物ノ重量ヲ計量シ難キ場合ニ於テ其ノ重量千疋以上ナリト推定セラル、トキハ推定重量ヲ表記スベシ

第二條 貨物發送者前條ノ規定ニ違反シタルトキハ科料ニ處ス

第三條 貨物發送者未成年者若ハ禁治產者ナルトキ又ハ法人ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法人ヲ代

表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第四條 貨物發送者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本令ニ違反スル行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ル、コトヲ得ズ

附 則

本令ハ昭和五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

供給労働者扶助令

昭和七年一月八日
勅令第二二號

工場法又ハ續業法ノ適用ヲ受クル事業ノ職工及傭夫並ニ労働者災害扶助法ノ適用ヲ受クル事業ノ労働者ニシテ勞務供給契約ニ基キ政府ノ使用スル者業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ政府ハ労働者災害扶助法施行令第四條乃至第十二條及第十五條乃至第十七條ノ規定ニ準ジ扶助ヲ爲ス但シ扶助ヲ

受クベキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ地方長官ニ屬スル職務ハ所轄官廳之ヲ行フ
附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

傭人扶助令

大正七年十一月二十一日勅令第三百八十二號
昭和三年六月三十日勅令第二百三十九號改正
昭和四年七月一日勅令第二百三十七號改正

- 第一條 政府ハ其ノ雇傭スル職工、傭夫其ノ他ノ傭人業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ本令ニ依リ扶助金ヲ支給ス
- 扶助金ノ支給ヲ受クベキ者法令ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ハ扶助金ノ額ヨリ之ヲ控除ス
- 扶助金ノ支給ハ傭人ヲ解雇スルモ變更スルコトナシ
- 第二條 扶助金ハ療治料、休業扶助料、障害扶助料、打切扶助料、遺族扶助料及葬祭料ノ六種トシ左ノ區別ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ支給ス
- 一 療治料ハ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニシテ官費治療ヲ受ケザルモノニ之ヲ支給ス
 - 二 休業扶助料ハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ因リ賃金ヲ受ケザル者ニ之ヲ支給ス
 - 三 障害扶助料ハ負傷又ハ疾病ノ治癒シタル時ニ於テ仍身體ニ障害ヲ存ズル者ニ之ヲ支給ス
 - 四 打切扶助料ハ療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病ノ治癒セザル者ニ之ヲ支給ス
 - 五 遺族扶助料ハ死亡シタル者ノ遺族又ハ其ノ死亡當時其ノ

傭人扶助令

- 收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給ス
- 六 葬祭料ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ傭人死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給ス葬祭ヲ行フ遺族ナキ場合ニ於テハ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給スルコトヲ得
- 打切扶助料ヲ支給スルトキハ以後本令ニ依ル他ノ扶助金ハ之ヲ支給セズ
- 傭人重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セザルコトヲ得
- 第三條 障害扶助料、打切扶助料、遺族扶助料又ハ葬祭料ノ額ハ別表金額ノ範圍内ニ於テ負傷、疾病又ハ死亡ノ原因、身體障害ノ輕重、勤務年限ノ長短其ノ他各種ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム
- 第四條 療治料又ハ休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ拂渡スモノトス
- 障害扶助料ハ傭人ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滞ナク、遺族扶助料及葬祭料ハ傭人ノ死亡後遲滞ナク之ヲ拂渡スモノトス
- 第五條 負傷又ハ疾病ノ再發ニ因リ身體障害ノ程度ヲ加重シタル場合ニ於テハ別表ノ規定ニ依リ之ヲ支給ス

備人扶助令

ル場合ニ於テハ障害扶助料ノ額ハ新ニ之ヲ定メ既ニ支給シタル障害扶助料ノ金額ヲ控除シテ之ヲ支給ス

第六條 遺族扶助料ノ支給ヲ受クベキ者ニ關シテハ工場法施行令第十條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス

第六條ノ二 備人健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クベキトキハ其ノ期間療治料ヲ支給セズ健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クベキトキハ休業扶助料ノ支給ニ付亦同ジ

備人ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルベキトキハ葬祭料ハ之ヲ支給セズ但シ葬祭料ノ額ガ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ額ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ健康保險法第六十二條第一項(第二號ヲ除ク)第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケザル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ療治料、休業扶助料又ハ葬祭料ハ之ヲ支給セズ

第七條 負傷又ハ疾病ガ備人ノ解雇後ニ再發シタル場合ニ於テハ扶助金ハ之ヲ支給セズ

第八條 解雇後一年ヲ經過シタルトキハ本令ニ依ル扶助金ハ之ヲ請求スルコトヲ得ズ但シ解雇前ニ又ハ解雇後一ケ年内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ扶助金ヲ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 扶助金算出ノ標準タル賃金ノ額ヲ定ムル方法ニ關シテハ工場法施行令第十六條第一項乃至第三項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リテ金額ヲ算出スルコトヲ得ザル場合ニ於テハ主務官廳之ヲ定ム

第十條 政府ヨリ給與金ヲ受クル相互救済ヲ目的トスル組合ノ組合員タル現業備人ニハ本令ニ依ル障害扶助料及遺族扶助料ハ之ヲ支給セズ

組合員タル現業備人組合ヨリ療治料、休業扶助料及葬祭料ニ相當スル給付ヲ受クベキトキハ第六條ノ二及第八條ノ規定ヲ準用シ打切扶助料ニ相當スル給付ヲ受クベキトキハ本令ニ依ル打切扶助料ハ之ヲ支給セズ

附則 本令ハ大正八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際官役職工人夫扶助令ニ依リ療治料又ハ給助料ヲ受ケ又ハ受クベキ者ニハ本令施行ノ日ヨリ本令ニ依ル扶助金ヲ支給ス

官役職工人夫扶助令ハ之ヲ廢止ス

附則 大正十五年六月三十日勅令第二百三十九號 本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ官費治療ヲ受クル者又ハ從前ノ規定ニ依リ扶助金ヲ受クル者ニシテ本令施行ノ際引續キ官費治療

又ハ扶助金ヲ受クル者ニ對スル扶助ハ本令施行後ハ本令ニ依ル本令施行前ニ官費治療又ハ扶助金ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病ガ本令施行後再發シテ扶助金ヲ受クル者ニ對スル扶助ニ付亦同ジ

附則 昭和三年六月廿八日勅令第二百二十八號 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹レル備人ニシテ本令施行ノ際仍治療

(別表)

種別	療治料		金額
	療治料	休業扶助料	
打切扶助料	同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發スル疾病ニ付休業百八十日以内ナルトキ	同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發スル疾病ニ付休業百八十日ヲ超エタルトキ	一日ニ付賃金日額百分ノ六十
	修身自用ヲ辨スルコト能ハザル者	修身自任ヲ辨スルコト能ハザル者	賃金五百四十日分以上七百日分以下
障害扶助料	從來ノ業務ニ服スルコト能ハザル者健康舊ニ復スルコト能ハザル者又ハ女子ニシテ其外親ニ醜疾ヲ發シタル者	修身自任ヲ辨スルコト能ハザル者	賃金三百六十日分以上五百日分以下
	得ル者	從來ノ業務ニ服スルコト能ハザル者健康舊ニ復スルコト能ハザル者又ハ女子ニシテ其外親ニ醜疾ヲ發シタル者	賃金四百日分以上五百日分以下
打切扶助料	得ル者	賃金五百四十日分以上七百日分以下	賃金五百四十日分以上七百日分以下

備人扶助令

355
914

昭和十年十月三十一日臺北印刷
昭和十年十一月五日臺北發行

〔定價壹圓五拾錢〕

勞働保護
關係法規
集
(含・福岡縣令)

編纂者

間

藤次郎

秀巧社出版部代表者

福岡市渡邊通り四丁目

印刷者

間

藤次郎

福岡市渡邊通り四丁目

印刷所

秀巧社

印刷所

福岡市渡邊通り四丁目

發行所

福岡市渡邊通り四丁目
電話一八九三・六八〇八番
接替福岡一五七九〇番

秀巧社出版部

